

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位	
	アジア先史文化特論	集中	集中	2	
	担当者 -山内 晋次	対象年次	授業に関する問い合わせ		
		1 年	授業終了後の教室やyamauchi@suma.kobe-wu.ac.jpで受付		
学びの準備	ねらい 本講義では、東アジアにおける日本列島産硫黄の国際的な流通状況を主軸としつつ、10～16世紀頃の汎アジア的な硫黄の交易・流通史を考察する。そして、この汎アジア的な硫黄流通システムのなかで南島地域が演じていた歴史的役割についても言及する。	メッセージ 「硫黄流通史」という分野はきわめて特殊かつ新しい歴史的視野なので、これまでこの分野の研究に触れたことのある受講者はほぼいないだろう。このため、下欄にいくつかの参考文献を記載している。これらの論著を事前に読んで授業に臨むことで、より理解が深まるはずである。			
	到達目標 本講義では、①南島史とアジア史との連動をより具体的に理解できるようになる、②一国史・一地域史中心史観に陥らない、国際的な歴史的視野・思考力を養うことができる、などの到達目標を想定している。				
学びの実践	学びのヒント 授業計画				
	回	テーマ	時間外学習の内容		
	1	ガイダンス	下欄の参考文献を事前に読む。		
	2	日宋・日元貿易と硫黄（1）	配布されたレジュメを見直す。		
	3	日宋・日元貿易と硫黄（2）	配布されたレジュメを見直す。		
	4	日宋・日元貿易と硫黄（3）	配布されたレジュメを見直す。		
	5	日宋・日元貿易と硫黄（4）	配布されたレジュメを見直す。		
	6	日宋・日元貿易と硫黄（5）	配布されたレジュメを見直す。		
	7	10世紀末～13世紀頃の汎アジア的硫黄流通	配布されたレジュメを見直す。		
	8	日麗・日明・日朝貿易と硫黄（1）	配布されたレジュメを見直す。		
	9	日麗・日明・日朝貿易と硫黄（2）	配布されたレジュメを見直す。		
	10	日麗・日明・日朝貿易と硫黄（3）	配布されたレジュメを見直す。		
	11	琉麗・琉明・琉朝貿易と硫黄（1）	配布されたレジュメを見直す。		
	12	琉麗・琉明・琉朝貿易と硫黄（2）	配布されたレジュメを見直す。		
	13	琉麗・琉明・琉朝貿易と硫黄（3）	配布されたレジュメを見直す。		
	14	14世紀～16世紀頃の汎アジア的硫黄流通	配布されたレジュメを見直す。		
	15	海域アジアという歴史的視野	配布されたレジュメを見直す。		
	16	試験（もしくはレポート提出）			
		テキスト・参考文献・資料など ＜参考文献＞山内晋次『日宋貿易と「硫黄の道」』山川出版社、2009／山内晋次「東アジア海域論」大津透他編『岩波講座日本歴史20 地域論』岩波書店、2014／山内晋次「海を渡る硫黄—14～16世紀前半の東アジア海域—鈴木英明編『中国社会研究叢書 21世紀「大国」の実態と展望7 東アジア海域から眺望する世界史—ネットワークと海域』明石書店、2019／山内晋次「日本列島の硫黄とアジアにおける「硫黄の道」」鹿毛敏夫編『硫黄と銀の室町・戦国』思文閣出版、2021／山内晋次「日宋・日元貿易期における「南島路」と硫黄交易」『国立歴史民俗学博物館研究報告』223、2021			
		学びの手立て 配布されるレジュメには、事前に目を通しておく。また、講義中に紹介される参考文献だけでなく、自分自身でも幅広く関連文献を検索し、それらを通じて知識・視野を広げていく。			
		評価 本講義の受講を通して、「①興味をもった点および②疑問に思った点について、それぞれその理由を明示しつつ記述せよ」、というかたちの筆記試験もしくはレポートを課し、その記述内容によって、講義内容の理解度や講義への積極的・主体的な参加の度合いなどを評価する。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 南島先史文化特論Ⅰ、南島先史特論Ⅱ、南島史学特論ⅠA、南島史学特論ⅠB、南島史学特論ⅡA、南島史学特論ⅡB				

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	考古学特論Ⅰ	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1 年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい グスク時代に関する考古学研究を中心に紹介する。出土遺物から当時の社会や文化について考える。	メッセージ 実際の発掘調査の現場について紹介し、グスク時代の遺構や遺物から社会について一緒に考える講義を行う。
	到達目標 調査報告書を読解し、考古資料から立論の合理性、科学的な表現ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	グスク時代はどんな時代なのか	配布資料を精読すること
	2	土器編年	配布資料を精読すること
	3	陶磁器編年	配布資料を精読すること
	4	時代区分と時期区分	配布資料を精読すること
	5	グスク論争	配布資料を精読すること
	6	農耕のはじまり	配布資料を精読すること
	7	墓制について	配布資料を精読すること
	8	滑石製石鍋	配布資料を精読すること
	9	金属器	配布資料を精読すること
	10	出土銭貨	配布資料を精読すること
	11	首里城跡とその周辺	配布資料を精読すること
	12	今帰仁城跡とその周辺	配布資料を精読すること
	13	沖縄のグスク時代遺跡	配布資料を精読すること
	14	奄美のグスク時代遺跡	配布資料を精読すること
学びの実践	15	宮古・八重山のグスク時代遺跡	配布資料を精読すること
	16	期末レポート提出	期限内に提出すること
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。受講者に課題を課し、発表することを計画する。 参考文献 『グスク文化を考える』沖縄県今帰仁村教育委員会(編) 新人物往来社 2004年		
学びの実践	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールにて連絡すること。 ・課題はべ切発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 博物館や各市町村の資料室などを訪ねて資料を見学すること。		
	評価 平常点(50%)、期末レポート(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「考古学特論Ⅱ」「南島先史文化特論Ⅰ・Ⅱ」「南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ」「南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ」「文化財保存特論」
-------	--

科目基本情報	科目名 考古学特論Ⅱ	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	月 6	2
	担当者 宮城 弘樹	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 琉球王国時代に関する考古学研究、特に墓の調査を中心に紹介する。出土遺物から当時の社会や文化について考える。	メッセージ 実際の発掘調査の現場について紹介し、琉球王国時代の遺構や遺物から社会について一緒に考える講義を行う。
	到達目標 調査報告書を読解し、考古資料から立論の合理性、科学的な表現ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球王国時代とはどんな時代なのか	配布資料を精読すること
	2	琉球王国時代へアクセスする歴史資料と考古資料	配布資料を精読すること
	3	近世墓の調査と研究	配布資料を精読すること
	4	お墓を調査する	配布資料を精読すること
	5	厨子の分類と編年	配布資料を精読すること
	6	銘書を読む	配布資料を精読すること
	7	出土人骨の調査	配布資料を精読すること
	8	民俗誌を読む	配布資料を精読すること
	9	共伴遺物を検討する（金属製品）	配布資料を精読すること
	10	共伴遺物を検討する（琉球陶器）	配布資料を精読すること
	11	葬墓制資料を用いた人口研究	配布資料を精読すること
	12	葬墓制資料を用いた所作の復元	配布資料を精読すること
	13	近現代のお墓と厨子	配布資料を精読すること
	14	奄美諸島の古墓	配布資料を精読すること
	15	宮古八重山諸島の古墓	配布資料を精読すること
	16	期末レポート提出	期限内に提出すること
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。受講者に課題を課し、発表することを計画する。 参考文献は、講義中適宜紹介する。		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールにて連絡すること。 ・課題はべ切発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 博物館や各市町村の資料室などを訪ねて資料を見学すること。		
	評価 平常点(50%) 、期末レポート（50%）で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「考古学特論Ⅰ」「南島先史文化特論Ⅰ・Ⅱ」「南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ」「南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ」「文化財保存特論」
-------	---

※ポリシーとの関連性

2. 南島文化について、幅広い分野の一流の講師陣が専門的な知識によって対話的な指導を行う特論科目の提供。

[

／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	国語教育学特論Ⅰ	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1 年	メールでお問い合わせください。	

学びの準備	ねらい 国語教育学研究の基礎として、戦後の国語教育の特質と歴史を知ることが、教育者としての自己の立ち位置を知り、新しい時代の教育を創造する上で非常に重要です。本講では、戦後の文学教育史に焦点を絞り、読む行為（読書行為）の成立の可能性を追求してきた歴史を検討します。	メッセージ 語義の解説と考察をまとめて、授業に臨んでください。 【実務経験】中学校教諭の現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。
	到達目標 戦後の文学教育史について、説明することができる。 文学教育史をふまえ、これからの文学教育について「読書行為の成立」の点から意見を述べることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキストの精読・分析・考察
	2	戦後国語教育の出発点の問題	テキストの精読・分析・考察
	3	「言語教育と文学教育」論争	テキストの精読・分析・考察
	4	現実認識の文学教育	テキストの精読・分析・考察
	5	問題意識喚起の文学教育	テキストの精読・分析・考察
	6	「主観主義と客観主義」論争	テキストの精読・分析・考察
	7	十人十色の文学教育	テキストの精読・分析・考察
	8	状況認識の文学教育①	テキストの精読・分析・考察
	9	状況認識の文学教育②	テキストの精読・分析・考察
	10	関係認識・変革の文学教育	テキストの精読・分析・考察
	11	戦後教育としての国語単元学習①	テキストの精読・分析・考察
	12	戦後教育としての国語単元学習②	テキストの精読・分析・考察
	13	大村はま国語教育の理念と方法	テキストの精読・分析・考察
	14	戦後国語教育史の人々①	テキストの精読・分析・考察
	15	戦後国語教育史の人々② まとめ	学びの振り返り
	16	予備日	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書を使用する。 田近洵一『戦後国語教育問題史』大修館書店、1999（¥2,400）		
	学びの手立て 【履修の心構え】事前にそれぞれのレポートに目を通して下さい。 【学びを深めるために】下記から1つ選択してください。 ①指定範囲の要旨をまとめ、私見をまとめて発表してもらい、それを討議することで授業を進めていきます。脚注には語義の解説も載せてください。 ②資料を読み、各自追求したいテーマを一つ絞ります。先行研究をもとに、考察し感想や疑問をまとめて下さい。各自の考察や疑問点を討議することで授業を進めます。		
	評価 レジュメ（40%）、発表・討議（40%）、平常点（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 【上位科目】国語科教育学特論Ⅱ 【次のステージ】国語科教育についての視野を広げるために、国語教育関連の学会や研究会への参加を勧めます。 。
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	国語教育学特論Ⅱ	後期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 千英子	1 年	メールでお問い合わせください。	

学びの準備	ねらい 国語教育学研究では文学の読みについて、1980年代より「読者論」が注目され、テキストの読みに対する読者の主体的参加をいかに捉えるかが議論されてきました。本講では、イーザーの読者反応理論をもとに、学習者の読書過程やテキストとの相互作用について検討します。	メッセージ 語義の解説と考察をまとめて、授業に臨んでください。 【実務経験】中学校教諭の現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。
	到達目標 学習者の読みの実態を想定しながら、考察することができる。 「空所」を用いた問いを作ることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキストの精読・分析・考察
	2	部分芸術対普遍的解釈	テキストの精読・分析・考察
	3	作用美学理論のための予備考察①	テキストの精読・分析・考察
	4	作用美学理論のための予備考察②	テキストの精読・分析・考察
	5	テキストのレパトリー①	テキストの精読・分析・考察
	6	テキストのレパトリー②	テキストの精読・分析・考察
	7	テキストのストラテジー	テキストの精読・分析・考察
	8	テキスト理解の行為①	テキストの精読・分析・考察
	9	テキスト理解の行為②	テキストの精読・分析・考察
	10	読書過程における受動的総合①	テキストの精読・分析・考察
	11	読書過程における受動的総合②	テキストの精読・分析・考察
	12	テキストと読者の不均衡	テキストの精読・分析・考察
	13	構成行為の推進力①	テキストの精読・分析・考察
	14	構成行為の推進力②	テキストの精読・分析・考察
	15	空所を用いた問い まとめ	学びの振り返り
	16	予備日	
	テキスト・参考文献・資料など W. イーザー 著、嚮田収訳『行為としての読書』岩波新書、1998 【参考文献】R. ビーチ著、山元隆春訳『教師のための読者反応理論入門－読むことの学習を活性化するために－』溪水社、1998		
	学びの手立て 【履修の心構え】事前にそれぞれのレポートに目を通していて下さい。 【学びを深めるために】下記から1つ選択してください。 ①指定範囲の要旨をまとめ、私見をまとめて発表してもらい、それを討議することで授業を進めていきます。脚注には語義の解説も載せてください。 ②資料を読み、各自追求したいテーマを一つ絞ります。先行研究をもとに、考察し感想や疑問をまとめて下さい。各自の考察や疑問点を討議することで授業を進めます。		
	評価 レジュメ（40%）、発表・討議（40%）、平常点（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 【次のステージ】国語科教育についての視野を広げるために、国語教育関連の学会や研究会への参加を勧めます。
-------	---

※ポリシーとの関連性		グローバルな視点を持って地域社会の課題に取り組むことで、沖縄の自立と国際社会の発展に貢献できる人材を育成する。		[	／一般講義]	
科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位		
	国際社会学特論	後期	月 5	2		
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ			
	-新垣 誠	1 年	makoto@ocjc.ac.jp			
学びの準備	ねらい	メッセージ				
	国際社会に山積する問題を社会学の観点から見つめてみると、地域社会との関連性が見えてくる。目まぐるしく変化する東アジア情勢の中であって沖縄もその例に漏れない。難民や労働移民などの人口移動が近代国民国家にどのような影響を及ぼしてきたのか。これからの多文化共生社会の可能性を、沖縄を通して考える。	沖縄を取り巻く国際情勢は、日夜激しく変化している。国際テロリズムや難民の問題は、決して対岸の火事ではなく、私たち一人ひとりが自身の課題として受け止める必要がある。そのためには、どのような理論や知識、視点が重要となってくるのだろうか。その答えを共に見つけよう。				
到達目標	①アメリカの対中東政策や新世界秩序の歴史を理解する。②それを背景として、現在アラブ諸国で起こっている様々な現象（「アラブの春」、シリア難民、イスラミックステイトなど）について分析、自らの意見を述べることができるようになる。③沖縄における多文化共生の実情や日本の難民受け入れ、外国人労働者の現状について概説できるようになる。④沖縄移民の歴史を理解し、その現状を説明できるようになる。					
学びの実践	学びのヒント					
	授業計画					
	回	テーマ	時間外学習の内容			
	1	ガイダンス、グローバリゼーションとは	グローバル化の定義を調べる。			
	2	近代における人口移動	沖縄移民について調べる。			
	3	沖縄の労働移民	移民の定義を調べる。			
	4	プッシュ・プル要因～労働市場と移民政策	労働移民の歴史を調べる。			
	5	ホスト国での移民コミュニティ	労働移民の歴史を調べる。			
	6	近代国家とマイノリティー	マイノリティの定義を調べる。			
	7	人種・民族・エスニシティ	エスニシティの定義を調べる。			
	8	近代国民国家とアイデンティティー	アイデンティティの定義を調べる。			
	9	「世界のウチナーンチュ・ネットワーク」	沖縄移民の歴史を調べる。			
	10	アメリカと移民の歴史	アメリカ移民の歴史を調べる。			
	11	アメリカの中東政策	米中東関係について調べる。			
	12	ヨーロッパにおける植民地主義と移民問題	植民地主義について調べる。			
	13	シリア難民とイスラムフォビア	シリア難民について調べる。			
	14	国際テロリズム	国際テロについて調べる。			
15	沖縄そして地球社会における多文化共生とは	学びの総括をする。				
16						
テキスト・参考文献・資料など	特定の教科書は使用せず、課題としてプリントや資料を、担当教員がそのつど準備する。					
学びの手立て						
履修の心構えとして、積極的に授業に参加しディスカッションを行うこと。学びを深めるために、毎回与えられた課題を予習し、授業内でのディスカッションに備えること。						
評価	ディスカッションにおけるパフォーマンス50％、期末レポート50％（ディスカッションにおいては、あらかじめ読んできた課題の理解度と、理論的に議論を構築できるか、質問に適切に答えられるか、批判的思考に基づいて意見を述べることができるか、などを評価する。期末レポートにおいては、テーマの理解度と批判的思考能力、意見のオリジナリティーを評価する。）					
学びの継続	次のステージ・関連科目					
学んだことをもとに、多文化共生社会実現に向けてのアクションを起こすことを視野に入れて欲しい。地域行政への政策提言を行ったり、グローバル化を意識した上で自らのライフスタイルを見直すことも期待する。						

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	社会学研究法特論	前期	水 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1 年	講義終了後またはメール等で問い合わせください。	

学びの準備	ねらい 本科目は、社会調査に基づいた研究テーマを有する大学院生が社会調査の企画と設計、調査の実施、分析・集計に関する知識と技能を実践的に習得することを目的とするものである。とくに、社会調査の技法に関する初歩から、研究テーマと方法論との論理構成上の積み上げ、さらに社会調査の実践等に関して指導していくものとする。調査方法論の基礎や調査倫理はもちろんのこと、質的調査の技法	メッセージ 学部で学んだ社会調査法を修士論文レベルで考え、使用し、マスターするための科目です。本科目は専門社会調査士資格の認定科目です。資格取得を目指す大学院生は、必ず履修してください。
	到達目標 社会調査の基本的な知識と技能を修士論文に使用できるようにマスターする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	社会調査の初歩（社会調査の企画・設計に向けたオリエンテーション）	社会調査の種類について調べる
	2	社会調査と調査倫理	調査の倫理的問題の事例を調べる
	3	研究方法とデータ収集法との論理的関係（個別具体的テーマから概念構成と仮説提示の論理へ）	修士論文の論理展開を考える
	4	社会調査の入口（学術情報ネットワークの活用術、CiNii等）	学術情報の検索、収集の実践
	5	社会調査の種類―質的調査①（参与観察法と非参与観察法）	参与観察法の事例を調べる
	6	社会調査の種類―質的調査②（ドキュメント分析と生活史法）	ドキュメント分析の事例を調べる
	7	社会調査の実践I―質的調査の実践（個別テーマに則し質的調査を用いてデータ収集を実践する）	論文での質的調査の可能性を考える
	8	社会調査の種類―量的調査①（概念構成および仮説提示から変数構築に向けて）	論文研究におけるキー概念の構築
学びの実践	9	社会調査の種類―量的調査②（調査票の作成方法：ワーディング等の基本ルール）	調査票作成の実践
	10	社会調査の種類―量的調査③（対象者・フィールドの選定法、およびサンプリングの理論と技法）	サンプリングの実践
	11	社会調査の実践II―量的調査の実践（個別テーマに則し簡単な調査票調査の実践）	調査票の事例を集める作業
	12	量的データの整理①（エディティング、コーディング、データクリーニング）	量的データ処理の基本を実践
	13	量的データの整理②（フィールドノート作成、コードブック作成）	フィールドノートの事例を調べる
	14	量的分析とグラフ作成（標本誤差と簡単な検定法、およびSPSS等のPC活用術）	量的データ処理の応用
	15	まとめとふりかえり（量的調査の報告レポート、および質的・量的調査に関する総合的なまとめ）	修士論文の方法を確立する
	16	補習	ふりかえりと修士論文指導
	テキスト・参考文献・資料など 大谷信介他編著、『社会調査へのアプローチ―論理と方法―』（第2版）、ミネルヴァ書房、2005年。適宜紹介する。		
	学びの手立て 大学院教育の目標である修士論文の調査研究を前提とした講義になる。研究テーマの具体的な論理展開の参考にするように心がけてください。		
	評価 提出物（論文・レポートなど）50点、平常点（出席回数、発表やディスカッションへの取り組み姿勢） 50点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 比較社会文化特論Ⅰ
-------	--------------------------

本授業は専門社会調査士資格取得のための科目であり、「多変量解析に関する演習（実習）科目」に該当します。

[一般講義]

科目基本情報	科目名 社会統計学特論	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	月 6	2
	担当者 -宮平 隆央	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	ptt505@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	社会学的な研究で用いられることの多い離散データ（クロス集計表や2値データ）の分析法を中心に、代表的な多変量解析法を学びます。複数の変数の因果関係やデータの構造を分析し、仮説に対する結論を導き出す方法として様々な多変量解析法が開発されています。講義では実際にデータを加工します。到達目標：社会現象等に関する概念モデルの計量的分析法を習得することを目的とします。 到達目標 授業は次の3ステップを経て、計量モデルを用いた分析法を学び、コンピュータを用いて実際に分析することのできる能力を習得します。1) 多変量解析を学ぶために、数理統計学の理論的基礎が理解できること。統計パッケージソフト (SPSS) を用いてデータを処理しながら統計の基礎を復習します。2) 各々の多変量解析の特性と利用上の留意点が理解できること。社会調査データを用いて分析実習を行います。SPSSによる分析手順と結果の解釈法、分析結果の記述方法を実践的に学びます。3) 最後に、履修生の研究テーマに関する先行研究のなかから、授業で紹介した多変量解析法を用いた実証的研究を選定し、論文の読解を行います。仮説の構築、適切なデータ処理、結果の記述や考察までの「データ分析の流れ」が理解できるようになります。	多変量解析法による仮説検証の醍醐味を味わい、分析の面白さや視野の広がりを感じましょう。

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	データの種類と多変量解析法の使い分け、統計パッケージソフトの基本的操作	テキスト等の通読
	2	同上	前回講義の復習
	3	多変量データ行列と基本統計量（分散と共分散）、因果と相関の違い	テキスト等の通読
	4	同上	前回講義の復習
	5	推定と仮説検定、サンプルと母集団について	PCによるデータ加工の復習
	6	クロス表の分析（１）独立性の検定	同上
	7	クロス表の分析（２）多重クロス表のログリニア分析	同上
	8	分散分析（１）平均と分散、交互作用	同上
	9	分散分析（２）２因子の相互作用、一般線形モデルとは	同上
	10	重回帰分析（１）回帰分析の基本、モデルの評価	同上
	11	重回帰分析（２）回帰モデルの比較検討、分析時の注意点、結果の記述方法（パス図）	同上
	12	回帰分析の応用-独立変数に質的変数を含んだ回帰分析	同上
	13	ロジスティック回帰分析（１）ロジット、係数の推定と検定、モデルの評価と解釈	同上
	14	ロジスティック回帰分析（２）モデルの比較検討、分析時の注意点	同上
15	多変量解析法を用いた原著論文の読解、期末レポート課題の発表	同上	
16			
テキスト・参考文献・資料など 教科書は、履修生の学習歴を聞いてから選定します。また、分析に必要なデータや操作マニュアルを、電子ファイルで配布します。 ○太郎丸博 「人文科学 カテゴリカルデータ解析」ナカニシヤ出版 ○村瀬洋一ほか共編「SPSSによる多変量解析」オーム社 ○岩井紀子ほか「調査データ分析の基礎：JGSSデータとオンライン集計の活用」有斐閣 ○数理社会学会 監修 「社会の見方、測り方： 計量社会学への招待」勁草書房			
学びの手立て １）第１回目の授業で受講生の関心などを共有し、教科書や学習内容を決定するので、必ず出席してください。 ２）分析ソフトを用いた統計解析という専門性を修得するには、学習の積み重ねが必要です。授業はすべて分析実習をともなうので、できるだけ欠席はしないこと。 ３）Excelで集計表を作成した経験があることが望ましい。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持つて最後まで取り組める人を歓迎します。			
評価 平常点:30%、宿題の提出:30 %、期末レポート:40% 平常点：毎講義でのコメントペーパー提出 宿題の提出：講義中で課題を指示する 期末レポート：講義中で説明する			

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 修士論文等の量的調査法によるデータ収集と分析
-----------------------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	植民地社会特論Ⅰ	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1 年	研究室（5434）、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 南島地域には植民地経験を有する社会が数多く存在するが、当該社会を理解するには被統治者側から析出される問題点の理解に加えて、植民地社会の構造を創出した統治者側の意図を理解することも不可欠である。そこで、本講義では、近年の帝国史研究の成果と植民地統治者が作成した行政文書の読解を通じて、統治者側からの観点に基づく植民地社会の在り方を理解することを目的とする。	メッセージ 本講義は、論文の要旨報告と史料読解が中心となります。いずれも、受講生の積極的な取り組みが不可欠です。
	到達目標 （１）帝国史研究に関する最新の研究成果を正確に読解し、その要旨を報告することができる。 （２）研究史の整理に相応しい報告レジュメを作成することができる。 （３）歴史史料を正確に読解し、当該史料の歴史的意義を理解することができる。 （４）他者の報告をしっかりと理解し、学問的に有意義な質問やコメントを適切におこなうことができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	04/10 ガイダンス：講義に関するルールを理解、報告順の確定	シラバスの精読
	2	04/17 先行研究要旨報告①：帝国主義史研究	配付資料の精読/報告・質問の準備
	3	04/24 先行研究要旨報告②：アジアの植民地①	配付資料の精読/報告・質問の準備
	4	05/01 先行研究要旨報告③：アジアの植民地②	配付資料の精読/報告・質問の準備
	5	05/08 先行研究要旨報告④：植民地統治体制①	配付資料の精読/報告・質問の準備
	6	05/15 先行研究要旨報告⑤：植民地統治体制②	配付資料の精読/報告・質問の準備
	7	05/22 先行研究要旨報告⑥：植民地統治体制③	配付資料の精読/報告・質問の準備
	8	05/29 先行研究要旨報告⑦：学問・文化と植民地①	配付資料の精読/報告・質問の準備
	9	06/05 先行研究要旨報告⑧：学問・文化と植民地②	配付資料の精読/報告・質問の準備
	10	06/12 先行研究要旨報告⑨：学問・文化と植民地③	配付資料の精読/報告・質問の準備
	11	06/19 植民地関係史料の輪読①：台湾総督府公文類纂①	配付史料の読解
	12	06/26 植民地関係史料の輪読②：台湾総督府公文類纂②	配付史料の読解
	13	07/03 植民地関係史料の輪読③：外務省外交記録①	配付史料の読解
	14	07/10 植民地関係史料の輪読④：外務省外交記録②	配付史料の読解
	15	07/24 まとめ	史料読解レポートの作成
	16	レポートの提出	
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など （１）テキスト （２）参考文献 （３）資料 『岩波講座 近代日本と植民地』（全８巻） 読解論文掲載の各文献 輪読する歴史史料は印刷の上、配布する		
	学びの手立て （１）履修の心構え ① 専門論文の要旨報告では、不明な語句、人名等を予め確認することは当然だが、執筆者の学問的な立場等もできるだけ確認した上で報告することが望ましい。 ② 歴史史料の輪読に際しては、史料読解の未経験者にも配慮した講義運営をおこなう予定でいる。 （２）学びを深めるために 台湾、朝鮮半島、東南アジア等の歴史に関する基礎的な事項を予め確認しておくことが望ましい。		
	評価 到達目標（１）の評価：要旨報告の内容（40%） 到達目標（２）の評価：報告用レジュメの内容（30%） 到達目標（３）の評価：史料読解レポートの内容（20%） 到達目標（４）の評価：講義時における質問やコメントの内容（10%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会文化領域の他の科目を履修した上で、特殊研究に結び付けて欲しい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	地理教育学特論	前期	土 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	崎浜 靖	1 年	sakihama@okuu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	到達目標			
学びの実践	本講義では、南島地域における地理的特性を学びながら、地理教育に必須の地図資料の扱い方やフィールドワークの方法など、地理的思考を深めるための技能をマスターする。とくに前近代から現代まで作成された地図資料の性格を吟味しながら、地理教材作成に繋げる方法を検討する。			
	南島の民俗文化について関心があり、それを地理的特性に関係させて理解したいと考える学生の受講を歓迎します。また高等学校教諭としての実務経験を活かして、社会科・地理教育の方法を、現場で応用できる講義を行います。			
	①地理学の方法と地理教育の関係について、南島地域の地理的特性を学ぶ中で理解を深める。②地図資料の扱い方、フィールドワークの方法などの地理的技能を高めることで、南島地域における地理教材作成の方法を習得する。③南島地域における民俗文化を理解するための学びを身につける。			
	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	講義ガイダンス	シラバスの確認	
	2	地理学と地理教育の関係	配布資料の精読	
	3	地理学の方法と地理教育の関係	配布資料の精読	
	4	系統地理学と地誌学(1)	配布資料の精読	
	5	系統地理学と地誌学(2)	配布資料の精読	
	6	系統地理学と地誌学(3)	配布資料の精読	
	7	地図の読解と利用方法(1)－現代地形図－	配布資料の精読	
	8	地図の読解と利用方法(2)－大正期地形図－	配布資料の精読	
	9	地図の読解と利用方法(3)－地籍図・国土基本図－	配布資料の精読	
	10	地図の読解と利用方法(4)－琉球国絵図－	配布資料の精読	
	11	地理的技能と地理教育(1)－空中写真の判読－	配布資料の精読	
	12	地理的技能と地理教育(2)－景観分析の方法－	配布資料の精読	
	13	地理的技能と地理教育(3)－本部半島のフィールドワーク－	配布資料の精読	
	14	南島における地理教育の方法	配布資料の精読	
	15	南島における地理教育の実践	配布資料の精読	
16	期末課題	講義全体の復習		
テキスト・参考文献・資料など				
特定のテキスト・資料などは指定しないが、講義中に参考文献を紹介する。				
学びの手立て				
日頃から南島（琉球・沖縄）に関する基礎的な文献を読んでおくことと、授業では毎回、配布される資料を読んで参加すること。				
評価				
講義の中で提示した課題（50％）や地理教材のレポート（50％）により評価する。				
学びの継続	次のステージ・関連科目			
	南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ			

※ポリシーとの関連性		2. 南島文化について、幅広い分野の一流の講師陣が専門的な知識によって対話的な指導を行う特論科目の提供。		[	／一般講義]	
科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位		
	南島芸能特論Ⅰ	前期	月 4	2		
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ			
	田場 裕規	1 年	ytaba@okiu.ac.jp			
学びの準備	ねらい		メッセージ			
	琉球・沖縄における芸能研究は、これまで文学研究や歴史研究を中心として行われてきた。いわば文献学的な考察が主流で、実演に即した芸能論が希薄だった。本講義では、伝統文化継承論を視野に入れ、琉球・沖縄に伝存する芸能の「身体表現」・「身体技法」を、技能伝承者たちの口伝や口頭伝承、あるいは各種芸論等の資料によって考察する。		観たものを説明するということは、観たものの実体を説明していると思いがちだが、実は、自分自身の視覚や感じ方を説明していることにほかならない。鈍磨された視覚・感覚では、説明は難しい。身体感覚は、言葉の世界よりも広い。自分自身の身体感覚を磨くことによって、言語化の難しい「わざ」の世界を明らかにしていく視点を持つてほしい。			
準備	到達目標					
	① 「身体表現」、「身体技法」を学ぶための基本概念（身体部位、骨格等の名称）を習得する。② 琉球舞踊の身体表現を分析することによって、各流派・会派が継承する「わざ」について考察することができる。③ 民俗芸能の身体表現と古典芸能の身体表現を比較・検討することによって、土の芸能と舞台の芸能の違いを理解することができる。④ 琉球舞踊における拍（テンポ）と身体表現、音曲と身体表現、歌詞と身体表現について、分析・検討することができる。⑤ 琉球・沖縄の芸能（特に琉球舞踊）について、身体論的なアプローチで伝統文化継承論を学ぶことができる。					
学びの実践	学びのヒント					
	授業計画					
	回	テーマ		時間外学習の内容		
	1	民俗芸能的身体／古典芸能的身体（生活環境・身分差・地域差の位相）		シラバスを元に学習計画を立てる。		
	2	日本の芸能における琉球舞踊の位置（儀礼舞踊、風流系盆踊等との比較）		提示資料を読む。		
	3	身体表現・身体技法の基礎概念を学ぶためのワーク①		提示資料を読む。		
	4	身体表現・身体技法の基礎概念を学ぶためのワーク②		提示資料を読む。		
	5	身体表現・身体技法の基礎概念を学ぶためのワーク③		提示資料を読む。		
	6	映像資料で読み解く琉球舞踊の古典化（玉城盛重・田代タカ子）		提示資料を読む。		
	7	古典女踊「かせかけ」の分析		提示資料を読む。		
	8	古典男踊「高平良万歳」の分析		提示資料を読む。		
	9	雑踊「花風」の分析		提示資料を読む。		
	10	雑踊「鳩間節」の分析		提示資料を読む。		
	11	文献資料で読み解く琉球舞踊の古典化（『日本民俗』昭和11年琉球古典芸能大会）		提示資料を読む。		
	12	研究上演「沖縄の古典芸能を考える」公演（組踊「執心鐘入」）		提示資料を読む。		
	13	舞台構造と琉球・沖縄の古典芸能		提示資料を読む。		
	14	こねり手の諸相一手の表現／歩みの諸相一すり足、ドゥーブイ／言葉化の問題		提示資料を読む。		
	15	ガマク遣いの諸相／股割／丹田／面遣い／足拍子／		提示資料を読む。		
	16	レポート提出、総括		振り返り、反省、総括を行う。		
	実践	テキスト・参考文献・資料など				
※教科書はありません。参考文献は以下の通りです。●久保 健、高橋 和子、三上 賀代、進藤 貴美子、原田 奈名子『「からだ」を生きる―身体・感覚・動きをひらく5つの提案』創文企画（2001）。●金武良章『御冠船夜話』若夏社（1983）。●矢野輝雄『沖縄舞踊の歴史』築地書館（1988）。●矢野輝雄『新訂増補 沖縄芸能史話』榕樹書林（1993）。						
	学びの手立て					
	① 無断欠席、遅刻をしないこと。② 講義内で視聴覚資料（映像・音声）を提示する。これに関わる資料を事前に読んで講義にのぞむこと。③ ボディワークを行う回（3～5回）は動きやすい服装で参加すること。④ 課外活動として、芸能が伝承される現場に出かける予定。日程は、初回に連絡する。					
	評価					
	受講態度とレポートで評価する。受講態度30%、レポート70%					
学びの継続	次のステージ・関連科目					
	（1）関連科目 南島文学特論ⅠA・ⅠB （2）次のステージ 自らの修論テーマと関連付けて講義を聴き、修士論文につなげること。					

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島芸能特論Ⅱ	後期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1 年	ytaba@okiu. ac. jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、組踊、琉球舞踊、沖縄芝居など、主に舞台芸能を取り上げる。舞踊家、役者の芸風を考察したり、個別の作品を分析検討することによって批評を試みる。また、それと同時に伝統文化の継承について考察する。	メッセージ 琉球王国が消滅し、王府芸能は琉球古典芸能として洗練されていた。その第一世代（盛重・松含・守良）の芸風を諸資料によって検討する。次に、戦後、松竹梅三劇団が目指した復興の痕跡をたどり、その中心にいた第二世代（由康・光裕・盛義・能造・興照）の芸風を諸資料によって検討する。復帰後の組踊、琉球舞踊、沖縄芝居、その他の舞台芸能を取り上げ、映像資料で考察する。
	到達目標 ①組踊、琉球舞踊、沖縄芝居の実演家を個別に検討考察することによって、実演家個別の意識の中にどのような継承の視点があったのかを明らかにすることができる。②米軍統治下における芸能はどのような意図で公営となったのかについて理解することができる。③戦後、各地の劇場と劇団の諸相を捉えることによって沖縄芝居がどのように変化してきたのか理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球王国の消滅と琉球芸能	学習計画を立てる。
	2	第一世代（盛重・松含・守良）の芸風	提示資料を読む。
	3	第二世代（由康・光裕・盛義・能造・興照）	提示資料を読む。
	4	辻遊郭と琉球芸能	提示資料を読む。
	5	首里系の芸能と劇場の芸能	提示資料を読む。
	6	「首里城明け渡し」の時代と史劇の誕生	提示資料を読む。
	7	四大歌劇の妙味一女形芸・民謡・所作の追究	提示資料を読む。
学びの実践	8	沖縄戦の中の役者たちそして松竹梅三劇団へ	提示資料を読む。
	9	伊良波尹吉の芸とその意義	提示資料を読む。
	10	親泊興照・宮城能造の「加那よ一天川」	提示資料を読む。
	11	女だけの劇団「乙姫劇団」の盛衰	提示資料を読む。
	12	大宜見小太郎と真喜志康忠の時代	提示資料を読む。
	13	沖縄演劇が拓いた沖縄芝居	提示資料を読む。
	14	沖縄芝居実験劇場の挑戦（大城立裕・幸喜良秀）	提示資料を読む。
	15	舞踊家たちと芸能コンクールー流派、会派の諸問題	提示資料を読む。
	16	レポート提出、総括	振り返り、反省、総括を行う。
	テキスト・参考文献・資料など ※教科書はありません。参考文献は以下の通りです。●矢野輝雄『沖縄舞踊の歴史』築地書館（1988）。●矢野輝雄『新訂増補 沖縄芸能史話』榕樹書林（1993）。●島袋光裕『石扇回想録』沖縄タイムス。●長堂英吉『鼓太平記』月間沖縄社（1985）。●真栄田勝朗『琉球芝居物語』青磁社（1981）。稲垣眞美『女だけの「乙姫劇団」奮闘記』（1990）。		
学びの実践	学びの手立て ① 無断欠席、遅刻をしないこと。② 講義内で視聴覚資料（映像・音声）を提示する。これに関わる資料を事前に読んで講義にのぞむこと。③ 課外活動として、劇場公演を鑑賞に出かける。（鑑賞料の補助を大学の文化会に申請する）。		
	評価 受講態度とレポートで評価する。受講態度30%、レポート70%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 （１）関連科目 南島文学特論ⅠＡ・ⅠＢ （２）次のステージ 自らの修論テーマと関連付けて講義を聴き、修士論文につなげること。
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島言語文化特殊研究Ⅰ	通年	火 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1 年	研究室番号：5401 E-mail：kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この科目は言語文化領域(特に琉球語、日本語)に関する修士論文の執筆を目指す学生を対象としています。先行研究を精読を通して関連領域の課題を明らかにし、フィールドワークや文献調査といった言語調査のための基本的な知識と手法を身につけるなど、修士論文執筆に向けた準備を進めていきます。	メッセージ 修士課程の2年間はあっという間に過ぎてしまいます。指導教員との積極的な対話と研究活動への意欲的な取り組みを期待します。
	到達目標 ・興味、関心のあるテーマについての先行研究を把握し、課題を明らかにする。 ・具体的な研究計画を策定し、着実に研究活動を進めていく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス	到達目標を理解する
	2	卒業論文と研究計画書の内容の確認と検討(1)	報告のためのレジュメを作成する
	3	卒業論文と研究計画書の内容の確認と検討(2)	報告のためのレジュメを作成する
	4	研究テーマの仮設定	研究テーマを検討する
	5	先行研究のリスト化(1)	先行研究を収集しリスト化する
	6	先行研究のリスト化(2)	先行研究を収集しリスト化する
	7	先行研究の読み込み(1)	言語調査の手法を調べ、まとめる
	8	先行研究の読み込み(2)	言語調査の手法を調べ、まとめる
	9	先行研究の読み込み(3)	言語調査の手法を調べ、まとめる
	10	先行研究の読み込み(4)	言語調査の手法を調べ、まとめる
	11	研究テーマに応じた調査方法の確認と検討(1)	言語調査の手法を調べ、まとめる
	12	研究テーマに応じた調査方法の確認と検討(2)	言語調査の手法を調べ、まとめる
	13	研究テーマに応じた調査方法の確認と検討(3)	言語調査の手法を調べ、まとめる
	14	夏季休暇中の調査研究計画の策定(1)	調査計画を具体化する
	15	夏季休暇中の調査研究計画の策定(2)－計画書の提出	調査研究計画書を作成する
	16	夏季休暇中の調査研究計画の策定(2)－計画書の提出	計画の実施状況を整理する
	17	予備調査の実施状況と成果の報告(1)	調査報告の準備を行う
	18	予備調査の実施状況と成果の報告(2)	調査報告の準備を行う
	19	追加すべき先行研究の検討と読み込み(1)	先行研究を追加収集しリスト化する
	20	追加すべき先行研究の検討と読み込み(2)	文献を精読しレジュメを作成する
	21	追加すべき先行研究の検討と読み込み(3)	文献を精読しレジュメを作成する
	22	本調査の計画とその準備(1)	本調査のための準備を行う
	23	本調査の計画とその準備(2)	本調査のための準備を行う
	24	本調査の計画とその準備(3)	本調査のための準備を行う
	25	本調査の実施とその成果の報告(1)	調査結果をまとめる
	26	本調査の実施とその成果の報告(2)	調査結果をまとめる
	27	修士論文の構成の検討(1)	修士論文の構成を立てる
	28	修士論文の構成の検討(2)	修士論文の構成を立てる
	29	春季休暇中の調査研究計画の策定(1)	調査計画を具体化する
	30	春季休暇中の調査研究計画の策定(2)－計画書の提出	調査研究計画書を作成する
	31	(予備日)	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマおよび興味・関心に応じて講義内で指示します。
	学びの手立て 先行研究の読み込み(精読)とは、書かれている内容をただ理解することではありません。課題の立て方や検証方法、考察の内容などについて、それが本当に妥当なものなのかどうか、客観的・批判的に読む力が求められます。多くの先行研究を「読み込む」作業を通して、自身の研究テーマへの理解を深めていきましょう。
	評価 ・平常点（受講態度、報告の内容等）：50% ・研究計画の進捗状況：50%
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 南島方言学特論Ⅰ・Ⅱ、南島言語文化特殊研究Ⅱ

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島言語文化特殊研究Ⅰ	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	1 年	研究室番号：5 4 0 2 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球列島で話されている琉球語諸方言の研究に取り組み、その構造を明らかにする。琉球語研究が琉球文学の読解に結びつくことにも注意をはらう。さらに、危機言語とされる琉球語の再生のために必要な試みについて考える。	メッセージ 院生は各人のテーマに従い、修士論文の枠組を構築する。担当教員は、適宜、修論指導を行う。なお、機会をみて、方言調査等のフィールドワークを行う予定である。
	到達目標 琉球語諸方言を調査・研究することができ、それを基盤として学術論文が書けるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	2	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	3	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	4	琉球語諸方言の概説	レジュメの作成・準備
	5	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	6	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	7	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	8	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成・準備
	9	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	10	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	11	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	12	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成・準備
	13	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	14	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	15	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	16	危機言語とその再活性化	レジュメの作成・準備
	17	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	18	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	19	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	20	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成・準備
	21	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	22	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	23	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	24	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成・準備
	25	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	26	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	27	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	28	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	29	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	30	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成・準備
	31	修士論文についての発表および質疑応答	総括

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。 『沖縄古語大辞典』（沖縄古語大辞典編集委員会[編]、1995年、角川書店）。 その他、適宜、指示する。
	学びの手立て 毎回、レジュメを作成、準備すること。特例授業か対面授業かはその都度指示する。
	評価 提出された研究レポートを評価する（50%）。 発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント、授業への積極的な関わり方を評価する（50%）。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 南島言語文化特殊研究Ⅱ、南島文学特論ⅡA、ⅡB。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島言語文化特殊研究Ⅱ	通年	火 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	2 年	研究室番号：5401 E-mail：kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この科目は言語文化領域(特に琉球語、日本語)に関する修士論文の執筆を目指す学生を対象としています。同Ⅰで学んだ内容を踏まえ、修士論文の完成を目指します。	メッセージ 修士論文の完成には、指導教員と学生が共にその研究の進捗状況を把握し、計画的に研究活動を進めていくことが重要です。報告→指導の流れを積み重ねながら着実に前へ進めましょう。
	到達目標 ・収集した調査データを実証的に分析・考察する。 ・適切な方法論によって積み上げた研究の成果を、修士論文としてまとめる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	前期ガイダンス	年間スケジュールを確認する
	2	補足調査の実施状況と成果の報告(1)	調査報告の準備を行う
	3	補足調査の実施状況と成果の報告(2)	調査報告の準備を行う
	4	研究計画を再策定	研究計画について再検討する
	5	調査データの分析と考察(1)	調査データ全体の分析と考察を行う
	6	調査データの分析と考察(2)	調査データ全体の分析と考察を行う
	7	調査データの分析と考察(3)	調査データ全体の分析と考察を行う
	8	調査データの分析と考察(4)	調査データ全体の分析と考察を行う
	9	各章の草稿の作成(1)	各章の草稿のチェックを受ける
	10	各章の草稿の作成(2)	各章の草稿のチェックを受ける
	11	各章の草稿の作成(3)	各章の草稿のチェックを受ける
	12	各章の草稿の作成(4)	各章の草稿のチェックを受ける
	13	中間報告会の準備(1)	中間報告に向けた準備を行う
	14	中間報告会の準備(2)	中間報告に向けた準備を行う
	15	中間報告の振り返りと夏季休暇中の調査研究計画書の提出	調査研究計画書を作成する
	16	後期ガイダンス	計画の実施状況を整理する
	17	研究計画の進捗状況と成果の報告(1)	成果報告の準備を行う
	18	研究計画の進捗状況と成果の報告(2)	成果報告の準備を行う
	19	執筆状況の報告と執筆指導(1)	草稿のチェックを受ける
	20	執筆状況の報告と執筆指導(2)	草稿のチェックを受ける
	21	執筆状況の報告と執筆指導(3)	草稿のチェックを受ける
	22	執筆状況の報告と執筆指導(4)	草稿のチェックを受ける
	23	執筆状況の報告と執筆指導(5)	草稿のチェックを受ける
	24	執筆状況の報告と執筆指導(6)	草稿のチェックを受ける
	25	修士論文の仮提出	仮提出原稿を仕上げる
	26	仮提出原稿の推敲(1)	仮提出原稿を推敲する
	27	仮提出原稿の推敲(2)	仮提出原稿を推敲する
	28	仮提出原稿の推敲(3)	修士論文を完成させる
	29	修士論文の本提出と内容の確認	最終試験・発表に備える
	30	最終試験および発表会に向けた準備	最終試験・発表に備える
	31	(予備日)	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 各自の研究テーマおよび興味・関心に応じて講義内で指示します。
	学びの手立て 学術的な知見を深めるため、県内外の学会や研究会に積極的に参加を推奨します。また、学会発表や学会誌への論文投稿も目指しましょう。
	評価 ・平常点（調査研究および報告への取り組み方等）：30% ・修士論文の完成度：70%
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 南島方言学特論Ⅰ・Ⅱ、南島言語文化特殊研究Ⅰ

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島言語文化特殊研究Ⅱ	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	西岡 敏	2 年	研究室番号：5 4 0 2 E-mail：nishioka@kiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	琉球列島で話されている琉球語諸方言の研究に取り組み、その構造を明らかにする。琉球語研究が琉球文学の読解に結びつくことにも注意をはらう。さらに、危機言語とされる琉球語の再生のために必要な試みについて考える。	Ⅱ（修士2年以上）院生は、修士論文の完成に向けて取り組む。担当教員は、適宜、修論指導を行う。なお、機会をみて、方言調査等のフィールドワークを行う予定である。		
	到達目標			
	琉球語諸方言を調査・研究することができ、それを基盤として学術論文が書けるようになる。			

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球語諸方言の概説	レジュメの準備、作成
	2	琉球語諸方言の概説	レジュメの準備、作成
	3	琉球語諸方言の研究史	レジュメの準備、作成
	4	琉球語諸方言の研究史	レジュメの作成、準備
	5	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成、準備
	6	琉球語諸方言と琉球文学	レジュメの作成、準備
	7	危機言語とその再活性化	レジュメの作成、準備
	8	危機言語とその再活性化	レジュメの作成、準備
	9	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成、準備
	10	方言調査のフィールドワーク	レジュメの作成、準備
	11	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成、準備
	12	フィールドワークのまとめ	レジュメの作成、準備
	13	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	14	琉球語諸方言についての研究発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	15	修士論文についての参考文献の整理	レジュメの作成、準備
	16	修士論文についての参考文献の整理	レジュメの作成、準備
	17	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	18	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	19	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	20	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	21	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	22	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	23	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	24	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	25	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	26	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	27	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	28	修士論文についての発表および質疑応答	レジュメの作成、準備
	29	修士論文についての発表および質疑応答	修士論文のまとめ
	30	修士論文のまとめ	修士論文のまとめ
	31	修士論文の製本・提出	修士論文の修筆

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 『沖縄語辞典』（国立国語研究所[編]、1963年、財務省印刷局）。 『沖縄古語大辞典』（沖縄古語大辞典編集委員会[編]、1995年、角川書店）。 その他、適宜、指示する。
	学びの手立て 毎回、レジュメを作成、準備すること。特例授業か対授業かはその都度指示する。
	評価 提出された修士論文を評価する（80%）。 発表者側の発表内容、聴き手側の質問・コメント、授業への積極的な関わり方を評価する（20%）。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 修士論文中間発表会、修士論文最終発表会、学会での発表。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島言語文化特論	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-小川 晋史	1 年	E-mail: ogwshinji[アットマーク]pu-kumamoto.ac.jp	
学びの準備	ねらい アクセント研究に関する基礎知識を得るとともに、日琉語の本土諸方言および琉球諸方言にみられるアクセントの特徴について学ぶ。方言アクセントの模擬調査も行うことで調査に必要な実践的な知識・技術をも学ぶ。	メッセージ 日本国内に存在する諸言語・諸方言のアクセントは非常に多彩です。この講義では特に琉球語を中心に特徴的な地点を複数とりあげていきます。また模擬調査も行います。それらを通じて、自身がアクセント調査をするときにどのような前提知識が必要か、どのようなテクニックがあるか、それをわかってもらえればと思います。		
	到達目標 ・日琉語のアクセント研究に必要な基礎知識を得る。 ・個別方言のアクセント体系について理解を深める。 ・自身でアクセント調査ができるようになる。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	イントロダクション	教科書の予習	
	2	アクセント研究の基礎知識（１）	教科書の予習・復習	
	3	アクセント研究の基礎知識（１）	教科書の予習・復習	
	4	アクセント研究の基礎知識（１）	教科書の復習	
	5	類別語彙と系列別語彙	配布資料の予習・復習	
	6	首里・那覇方言およびウチナーヤマトグチのアクセント	配布資料の予習・復習	
	7	やんばるの諸方言のアクセント	配布資料の予習・復習	
	8	喜界島および奄美大島の諸方言アクセント	配布資料の予習・復習	
	9	徳之島諸方言のアクセント（１）（共時論）	配布資料の予習・復習	
	10	徳之島諸方言のアクセント（２）（通時論）	配布資料の予習・復習	
	11	伊良部方言のアクセント	配布資料の予習・復習	
	12	多良間方言のアクセント	配布資料の予習・復習	
	13	波照間方言のアクセント	配布資料の予習・復習	
	14	アクセントの模擬調査（１）	配布資料の予習・復習	
	15	アクセントの模擬調査（２）	配布資料の予習・復習	
	16	模擬調査のまとめと解説	全体のまとめと振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など 教科書として『日本語アクセント入門』（三省堂2012）を使用します。その他の資料や論文は適宜指示します。			
	学びの手立て 単純な座学のための講義ではなく、後半には模擬調査（実践）も行う。これらによって、調査票などのアクセント調査の準備に必要な知識と、実際に調査現場に必要なテクニックを合わせて習得することを目指す。			
	評価 （１）教科書や資料の内容を予習して理解できているかの質問に対する応答（30%） （２）講義中に新たに出てきた内容についての議論・質問の内容（40%） （３）アクセント模擬調査で構築したアクセント体系の評価（30%）			
学びの継続	次のステージ・関連科目 ・南島方言学特論Ⅰ・Ⅱ、南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ			

科目基本情報	科目名 南島史学特論ⅠA	期 別 前期	曜日・時限 火 6	単 位 2	
	担当者 -豊見山 和行	対象年次	授業に関する問い合わせ		
		1 年	授業終了後、教室で受け付けます。		
学びの準備	ねらい 島々からなる琉球列島の前近代史を食と農業、貢納制の視点から検討する。	メッセージ 琉球の食文化を広い視点から捉え直すものとします。			
	到達目標 旧来の琉球史では十分に引き上げられてこなかった領域において、特に食と農業を中心として、琉球列島人の生活史へアプローチします。方法論と素材の検討を通して、琉球史像を豊にすることが可能となります。				
学びの実践	学びのヒント 授業計画				
	回	テーマ	時間外学習の内容		
	1	導入。関係文献、史料の紹介。次回以降の割当てなど。	関係文献について把握する		
	2	琉球の食文化史に関する基本文献の検討1	読解部分に関する事前の準備		
	3	琉球の食文化史に関する基本文献の検討2	読解部分に関する事前の準備		
	4	琉球の食文化史に関する基本文献の検討3	読解部分に関する事前の準備		
	5	琉球の食文化史に関する基本文献の検討4	読解部分に関する事前の準備		
	6	琉球の食文化史に関する基本文献の検討5	読解部分に関する事前の準備		
	7	琉球の食文化史に関する基本文献の検討6	読解部分に関する事前の準備		
	8	琉球農業史に関する基本文献の検討（農務帳）1	読解部分に関する事前の準備		
	9	琉球農業史に関する基本文献の検討（農務帳）2	読解部分に関する事前の準備		
	10	琉球農業史に関する基本文献の検討（農務帳）3	読解部分に関する事前の準備		
	11	琉球農業史に関する基本文献の検討（農務帳）4	読解部分に関する事前の準備		
	12	琉球農業史に関する基本文献の検討（八重山島農務帳）1	読解部分に関する事前の準備		
	13	琉球農業史に関する基本文献の検討（八重山島農務帳）2	読解部分に関する事前の準備		
	14	琉球農業史に関する基本文献の検討（八重山島農務帳）3	読解部分に関する事前の準備		
	15	琉球農業史に関する基本文献の検討（八重山島農務帳）4	読解部分に関する事前の準備		
	16	まとめ	最終レポートの準備		
	テキスト・参考文献・資料など 『日本農書全集 農務帳など』第34巻、1983年、農山漁村文化協会。先行研究の検討、および基本的に活字史料を検討します。				
	学びの手立て 現代の沖縄の食生活と対比することで、前近代琉球の食と農業がリアルに捉えられます。身近な沖縄の食材に関心をもつことを勧めます。				
	評価 毎回の発表（50パーセント）、最終レポート（50パーセント）				
学びの継続	次のステージ・関連科目 後期も関連した講義を行い、史料をさらに拡大して内容をより深めるものとします。				

科目基本情報	科目名 南島史学特論ⅠB	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	火 6	2
	担当者 -豊見山 和行	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	授業終了後、教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 島々からなる琉球列島の前近代史を食と農業、貢納制の視点から検討する。	メッセージ 琉球の食文化を広い視点から捉え直すものとします。
	到達目標 旧来の琉球史では十分に取上げられてこなかった領域において、特に食と農業を中心として、琉球列島人の生活史へアプローチします。方法論と素材の検討を通して、琉球史像を豊にすることが可能となります。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入。関係文献、史料の紹介。次回以降の割当てなど。	関係文献について把握する
	2	琉球の食文化史に関する基本文献の検討1	読解部分に関する事前の準備
	3	琉球の食文化史に関する基本文献の検討2	読解部分に関する事前の準備
	4	琉球の食文化史に関する基本文献の検討3	読解部分に関する事前の準備
	5	琉球の食文化史に関する基本文献の検討4	読解部分に関する事前の準備
	6	琉球農業史に関する基本文献の検討（八重山島農務帳）5	読解部分に関する事前の準備
	7	琉球農業史に関する基本文献の検討（八重山島農務帳）6	読解部分に関する事前の準備
	8	琉球農業史に関する基本文献の検討（八重山島農務帳）7	読解部分に関する事前の準備
	9	琉球農業史に関する基本文献の検討（八重山島農務帳）8	読解部分に関する事前の準備
	10	琉球農業史に関する基本文献の検討（八重山島農務帳）9	読解部分に関する事前の準備
	11	農業と貢納制1	事前配布資料の読み込みと整理
	12	農業と貢納制2	事前配布資料の読み込みと整理
	13	農業と貢納制3	事前配布資料の読み込みと整理
	14	農業と貢納制4	事前配布資料の読み込みと整理
	15	農業と貢納制5	事前配布資料の読み込みと整理
	16	まとめ	最終レポートの準備
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『日本農書全集 農務帳など』第34巻、1983年、農山漁村文化協会。「諸物代付け帳」（翻刻史料）など。先行研究の検討、および基本的に活字史料を検討します。		
	学びの手立て 現代の沖縄の食生活と対比することで、前近代琉球の食と農業がリアルに捉えられます。身近な沖縄の食材に関心をもつことを勧めます。		
	評価 毎回の発表（50パーセント）、最終レポート（50パーセント）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 他の琉球史関係科目の履修によって、琉球史像を
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島史学特論Ⅱ A	前期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	1 年	水曜日 2 限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 近世琉球関連史料が2 0 世紀を経てどのように伝来したのかを丹念に確認します。首里王府関係史料の所在、那覇関係史料の性格、沖縄県立沖縄図書館所蔵資料の検討を通して、近世琉球の史料論を再構築することをねらいとします。	メッセージ 学内外の琉球・沖縄史に関わる研究会やシンポジウムに参加して雰囲気接することは研究者としての財産になります。情報収集を意識してください。
	到達目標 2 0 世紀前半から現在にいたる近世琉球関連史料の伝来について理解できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、近世琉球関連史料の伝来と史料論	到達目標を理解する
	2	沖縄県教育庁文化課による古文書および歴史資料調査について	史料調査の概要を把握する
	3	首里王府関係史料の所在と分布	史料の伝来状況を把握する
	4	「旧琉球藩評定所書類目録」と『琉球王国評定所文書』	史料の伝来状況を把握する
	5	尚家文書の成立過程と目録類	史料の成立過程を把握する
	6	那覇関係史料の記録類―親見世の業務日誌と那覇役人の公務日記―	史料の性格を把握する
	7	「琉球資料」の内容分類と原表題	史料の性質を把握する
	8	「琉球産業制度資料」の成立過程	史料の成立過程を把握する
	9	「琉球産業制度資料」の王府関係史料	史料の典拠を把握する
	10	「琉球産業制度資料」の間切関係史料	史料の典拠を把握する
	11	『琉球史料目録』と『郷土志料目録』	1920年代の史料の伝存を把握する
	12	『郷土資料目録』の王府関係史料	同目録を丹念に読み込む
	13	『郷土資料目録』の那覇関係史料	同目録を丹念に読み込む
	14	『郷土資料目録』の間切関係史料	同目録を丹念に読み込む
	15	受講生によるテーマに沿った報告と討議	報告の準備と事後の再検討
	16	レポート	報告と討議を踏まえ作成する
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト・資料】 レジュメと参考資料を配布します。 【参考文献】『那覇市史』資料篇第1 巻 9 近世那覇関係資料（古文書編） 『那覇市史』資料篇第1 巻 1 0 琉球資料（上）		
	学びの手立て 沖縄県内の市町村史の文献資料集に収録されている各史料とその所蔵機関を確認してみてください。		
	評価 報告と討議の内容（6 0 %）とレポートの内容（4 0 %）によって総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「南島史学特論Ⅰ A」「南島史学特論Ⅰ B」
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島史学特論Ⅱ B	後期	月 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	1 年	水曜日 2 限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	
学びの準備	ねらい 近世的那覇関係史料の伝来状況を確認したうえ、親見世が所管した史料群を再検討し、近世琉球の史料論を再構築することをねらいとします。テキストとして「乾隆元年 親見世日記」（『国立台湾大学図書館典藏 琉球関係史料集成』第 1 巻）を用いて様式や内容を検討します。	メッセージ 学内外の琉球・沖縄史に関する研究会やシンポジウムに参加して雰囲気に触れることは研究者としての財産になります。情報収集を意識してください。		
	到達目標 ・親見世所管の史料群と家文書の関係など近世的那覇関係史料の伝来状況について理解できるようになる。 ・1 8 世紀前半の那覇や那覇港の状況と近世琉球の全体史を関連づけて理解できるようになる。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	イントロダクション、近世的那覇関係史料の伝来と史料論	到達目標を理解する	
	2	那覇関係史料と親見世所管史料について	史料の伝来状況を把握する	
	3	福地家文書の那覇関係史料について	伝来する各史料の性格を把握する	
	4	沖縄県立沖縄図書館所蔵資料について	1920年代の史料の伝存を把握する	
	5	台北帝国大学と「親見世日記」の筆写について	同史料が伝来した経緯を把握する	
	6	「親見世日記」の検討①（受講生による講読）	テキストを下読みする	
	7	「親見世日記」の検討②（同上）	テキストを下読みする	
	8	「親見世日記」の検討③（同上）	テキストを下読みする	
	9	「親見世日記」の検討④（同上）	テキストを下読みする	
	10	「親見世日記」の検討⑤（同上）	テキストを下読みする	
	11	「親見世日記」の検討⑥（同上）	テキストを下読みする	
	12	琉球資料の「親見世日記」との比較	琉球資料に目を通す	
	13	「親見世日記」と「産物方日記」の比較	「産物方日記」に目を通す	
	14	「親見世日記」と「異国日記」の比較	「異国日記」に目を通す	
	15	受講生によるテーマに沿った報告と討議	報告の準備と事後の再検討	
16	レポート	報告と討議を踏まえ作成する		
学びの継続	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト・資料】講義の前半ではレジュメと参考資料を配布します。講義の後半では、テキストとして「親見世日記」のコピーを配布します。 【参考文献】『那覇市史』資料篇第 1 巻 9 近世那覇関係資料（古文書編） 『那覇市史』資料篇第 1 巻 1 0 琉球資料（上）			
	学びの手立て 沖縄県内の市町村史の文献資料集に収録されている各史料とその所蔵機関を確認してみてください。			
	評価 報告と討議の内容（6 0 %）とレポートの内容（4 0 %）によって総合的に評価します。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 「南島史学特論Ⅰ A」 「南島史学特論Ⅰ B」			

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島社会特論Ⅰ	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	秋山 道宏	1 年	オフィスアワーもしくは学内メールにて受けつける。	
学びの準備	ねらい 沖縄戦や原爆をめぐる戦争体験について、社会学（社会科学）の視点からどのようにアプローチが可能かについて、文献の輪読を通して学んでいく。	メッセージ 戦争体験を語ることは、いまでは一般的なことのように思われているが、戦後の歴史に根ざした営み（実践）であると言える。その歴史性や語ることの「痛み」への想像力も働かせながら、学んでほしい。		
	到達目標 （１）社会学（社会科学）に依拠し、さまざまな戦争体験を捉えるための理論や視座について学ぶ。 （２）文献の輪読と議論を通して、自らの問題関心を研究課題としてまとめあげる。 （３）文献の精読を通して、資料・文献の読解方法と、読解した資料・文献に基づいて論理的に文章を組み立てていく力を養う。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	イントロダクション（講義テーマの概説および評価方法等の説明）	シラバスをよく読んでおくこと	
	2	受講生の問題関心・研究計画の報告①	問題関心・研究計画をまとめる	
	3	受講生の問題関心・研究計画の報告②	問題関心・研究計画をまとめる	
	4	沖縄戦体験の戦後史①軍事・軍隊の視点からの沖縄戦像	対象文献と関連資料の精読	
	5	沖縄戦体験の戦後史②1960年代の「語り」への着目と住民視点への転換	対象文献と関連資料の精読	
	6	沖縄戦体験の戦後史③日本復帰後の沖縄戦像の刷新	対象文献と関連資料の精読	
	7	原爆体験を捉える視点①石田忠の「反原爆」の思想	対象文献と関連資料の精読	
	8	原爆体験を捉える視点②リフトン、米山リサの視点	対象文献と関連資料の精読	
	9	原爆体験を捉える視点③原爆体験への新たなアプローチ	対象文献と関連資料の精読	
	10	集合的記憶と戦争体験①集合的記憶の理論	対象文献と関連資料の精読	
	11	集合的記憶と戦争体験②博物館・資料館の「展示」から浮かびあがる集合的記憶の問題系	対象文献と関連資料の精読	
	12	集合的記憶と戦争体験③書物や教科書への記述から浮かびあがる集合的記憶の問題系	対象文献と関連資料の精読	
	13	戦争体験とトラウマ①トラウマの理論と戦争体験	対象文献と関連資料の精読	
	14	戦争体験とトラウマ②沖縄戦、原爆体験とトラウマ	対象文献と関連資料の精読	
	15	講義全体のまとめと議論、レポート提出	講義全体の内容についての復習	
	16			
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。テーマごとに輪読する文献を提示し、必要な場合には関連資料を配布する。 文献輪読の候補としては、石田忠『反原爆：長崎被爆者の生活史』（未来社、1973年）、石原昌家『虐殺の島：皇軍と臣民の末路』（晩声社、1978年）、高山真『「被爆者」になる：変容する「わたし」のライフストーリー・インタビュー』（せりか書房、2016年）、根本雅也『ヒロシマ・パラドクス：戦後日本の反核と人道意識』（勉誠出版）、宮地尚子『環状島=トラウマの地政学』（みすず書房、2018年）を挙げておく。			
	学びの手立て 毎回の講義の復習によって、輪読した文献内容の理解を深めるとともに、関連する研究論文や文献についても自主的に収集・読解し、自身の研究テーマを練り上げてほしい。			
	評価 平常点30%、報告・課題への取り組み70%で評価する。			
	学びの継続	次のステージ・関連科目 社会文化領域を中心とする関連科目		

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島社会特論Ⅱ	後期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	秋山 道宏	1 年	オフィスアワーもしくは学内メールにて受けつける。	

学びの準備	ねらい 日本と米国による統治（統合）のもとに置かれてきた沖縄の近現代史を対象とし、社会学（社会科学）の視点からどのようにアプローチが可能かを、テーマごとの文献の輪読を通して学んでいく。具体的なテーマとしては、沖縄戦における戦争体験と、それに続く米国による占領体験を扱い、それらの体験がどのように記憶・継承されてきたのかについて検討していく。	メッセージ 沖縄の近現代の歴史は、ややもすると「琉球処分」や「米軍基地問題」といった「枠にはめられたイメージ」で捉えられがちである。そのイメージを崩しながら、現在の沖縄社会を形づくってきた豊富な経験について考えていってほしい。
	到達目標 （１）近現代における沖縄の歴史の具体像を理解し、現代の沖縄社会の特徴と抱えている課題について歴史的・批判的に捉える視点を学ぶ。 （２）文献の輪読と議論を通して、自らの問題関心を研究課題としてまとめあげる。 （３）文献の精読を通して、資料・文献の読解方法と、読解した資料・文献に基づいて論理的に文章を組み立てていく力を養う。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション（講義テーマの概説および評価方法等の説明）	シラバスをよく読んでおくこと
	2	近代沖縄と沖縄戦①戦前沖縄社会と軍事化	対象文献と関連資料の精読
	3	近代沖縄と沖縄戦②沖縄戦と軍隊・軍事の論理	対象文献と関連資料の精読
	4	近代沖縄と沖縄戦③沖縄戦と基地社会のはじまり	対象文献と関連資料の精読
	5	生活・生命の視点からみる占領体験①戦後占領と住民の生活	対象文献と関連資料の精読
	6	生活・生命の視点からみる占領体験②島ぐるみ闘争の土地闘争としての意味	対象文献と関連資料の精読
	7	生活・生命の視点からみる占領体験③ベトナム戦争と沖縄	対象文献と関連資料の精読
	8	生活・生命の視点からみる占領体験④B52撤去運動から2・4ゼネストへ	対象文献と関連資料の精読
学びの実践	9	交錯する戦争体験と占領体験：体験記録運動から考える①戦争体験の語りと軍隊・軍事の論理	対象文献と関連資料の精読
	10	交錯する戦争体験と占領体験：体験記録運動から考える②体験記録運動の契機と展開	対象文献と関連資料の精読
	11	交錯する戦争体験と占領体験：体験記録運動から考える③占領体験から想起される戦争体験	対象文献と関連資料の精読
	12	日本復帰後も継続する占領体験①米軍基地の固定化と住民の生活	対象文献と関連資料の精読
	13	日本復帰後も継続する占領体験②「1995年」と「9. 11」以後を考える	対象文献と関連資料の精読
	14	日本復帰後も継続する占領体験③「オール沖縄」「島ぐるみ」の運動を考える	対象文献と関連資料の精読
	15	講義全体のまとめと議論、レポート提出	講義全体の内容についての復習
	16		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。テーマごとに輪読する文献を提示し、必要な場合には関連資料を配布する。 関連する重要文献として、前田勇樹ほか『つながる沖縄近現代史：沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』（ポードーインク、2021年）、屋嘉比収他編『沖縄・問いを立てる1 沖縄に向き合う：まなざしと方法』（社会評論社、2008年）、屋嘉比収『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす：記憶をいかに継承するか』（世織書房、2009年）を挙げておく。『つながる沖縄近現代史』と『沖縄・問いを立てる』のシリーズ全6巻は、沖縄の近現代史に関する幅広いテーマを扱っているため、受講に向けて目を通しておくことをおすすめする。		
	学びの手立て 毎回の講義の復習によって、輪読した文献内容の理解を深めるとともに、関連する研究論文や文献についても自主的に収集・読解し、自身の研究テーマを練り上げていってほしい。		
	評価 平常点30%、報告・課題への取り組み70%で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 社会文化領域を中心とする関連科目
-------	---------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島社会文化特殊研究 I	通年	月 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1 年	fujinami@okuu.ac.jpまたは講義終了後	

学びの準備	ねらい 本ゼミは、社会文化領域で修士論文を執筆することを目指す学生を対象としている。先行研究の整理、学説史の概観、関係史資料の読解、調査計画の作成、個人調査の実施と報告、修士論文の構想策定と概要執筆等をおこなうことを通じて、修士論文執筆に向けた準備作業を実施することをねらいとする。	メッセージ 修士論文の作成は時間、根気と継続力が求められる。そのため、長期的、計画的に研究活動を推進することのできる実行力を身につけるとともに、積極的な対話や議論を通じた専門分野の深い修得に努めてもらいたい。
	到達目標 （１）自らの修論テーマに関する先行研究を整理し、学説史をまとめることができる。 （２）自らの修論テーマに関する資史料を集め、正確に読解することができる。 （３）自らの修論テーマに関する調査計画を策定し、基礎調査を実施することができる。 （４）自らの修論テーマに関する構想を策定し、その概要を執筆することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	04/10 ガイダンス	履修ガイド、シラバスの読解
	2	04/17 卒業論文の整理と修論仮テーマの策定①	卒業論文の振り返り報告の準備
	3	04/24 卒業論文の整理と修論仮テーマの策定②	卒業論文の振り返り報告の準備
	4	05/01 先行研究に関する調査①	論文リスト作成、論文の収集
	5	05/08 先行研究に関する調査②	論文リスト作成、論文の収集
	6	05/15 学説史の整理・報告①	論文の読解、報告準備
	7	05/22 学説史の整理・報告②	論文の読解、報告準備
	8	05/29 学説史の整理・報告③	論文の読解、報告準備
	9	06/05 学説史の整理・報告④	論文の読解、報告準備
	10	06/12 関係史資料に関する報告①	史資料の分析・読解、報告準備
	11	06/19 関係史資料に関する報告②	史資料の分析・読解、報告準備
	12	06/26 関係史資料に関する報告③	史資料の分析・読解、報告準備
	13	07/03 関係史資料に関する報告④	史資料の分析・読解、報告準備
	14	07/10 調査計画の策定・報告①	報告準備
	15	07/24 調査計画の策定・報告②	報告準備
	16	09/18 後期ガイダンス	報告準備
	17	09/25 夏期休業中の調査報告①	報告準備
	18	10/02 夏期休業中の調査報告②	報告準備
	19	10/16 先行研究の補充調査	論文リスト作成、論文の収集
	20	10/23 学説史の補充報告①	報告準備
	21	10/30 学説史の補充報告②	報告準備
	22	11/06 関係史資料の補充調査	史資料の調査・読解、報告準備
	23	11/13 関係史資料の補充報告①	報告準備
	24	11/20 関係史資料の補充報告②	報告準備
	25	12/04 修論構想報告①	報告準備
	26	12/11 修論構想報告②	報告準備
	27	12/18 修論構想報告③	報告準備
	28	12/25 修論構想報告④	報告準備
	29	01/15 修論概要報告①	修論概要の作成
	30	01/22 修論概要報告②	修論概要の作成
	31	01/29 まとめ	春期休業の調査計画の作成

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 受講生の修論テーマや興味・関心に応じて、講義において指示する。
	学びの手立て 受講生には修士論文を作成するための真摯な姿勢をもって受講してもらいたい。修士論文は学術論文のスタートともなり、大学院終了後のキャリアにも影響を有することになる重要なものである。そのため、狭い意味での自らの専門だけでなく、南島社会に関する広範な研究成果を積極的に吸収し、関連する史資料を多面的に考察できるような能力を修得してもらいたい。
	評価 到達目標（１）の評価：学説史に関する報告の内容（30%） 到達目標（２）の評価：関係史資料に関する報告の内容（20%） 到達目標（３）の評価：調査報告の内容（20%） 到達目標（４）の評価：修論構想と執筆概要の内容（30%）
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 南島社会特論Ⅰ・Ⅱ、植民地社会特論Ⅰ・Ⅱ、社会学研究法特論、社会統計学特論、国際社会学特論、比較社会文化特論Ⅰ・Ⅱなど。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島社会文化特殊研究Ⅰ	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1 年	オフィスアワーと学内E-mailで随時対応する	

学びの準備	ねらい 研究論文作成（修士論文執筆）に向けて、基本的な行程の前半部分（先行研究、論点整理、方法論の確定等）を身につける。受講者各人の研究テーマに応じて研究計画の具体的な方向性を定め、社会調査や資料収集のための準備等を行う。	メッセージ 研究論文作成は、論点、方法論、分析枠組みという「設計図」によって大きく左右されます。この「設計図＝地図」がなければ、研究という「山」、データという「ジャングル」を登山することができずに「遭難」してしまいます。特殊研究Ⅰでは、この「設計図」作りに注力しましょう。
	到達目標 研究論文作成（修士論文執筆）に向けた基本的な行程のうち、先行研究と論点整理、方法論と分析枠組みの確定までを完了し、実際の社会調査や資料収集のための準備を整えること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	研究計画の確認と再考	研究計画書のレジュメ作成
	2	先行研究の方向性の確認	関連する文献等の基本情報探索
	3	先行研究に関する報告①	関連文献等の精読とレジュメ作成
	4	先行研究に関する報告②	関連文献等の精読とレジュメ作成
	5	先行研究に関する報告③	関連文献等の精読とレジュメ作成
	6	関連基礎資料に関するに関する報告①	関連基礎資料の情報探索
	7	関連基礎資料に関するに関する報告②	関連基礎資料の精読とレジュメ作成
	8	関連基礎資料に関するに関する報告③	関連基礎資料の精読とレジュメ作成
	9	先行研究からの論点整理（基礎資料の整理①）	関連基礎資料のデータベース化
	10	先行研究からの論点整理（基礎資料の整理②）	関連基礎資料のデータベース化
	11	先行研究からの論点整理（概念構成と理論的方向性の確定①）	理論的背景に関するレジュメ作成
	12	先行研究からの論点整理（概念構成と理論的方向性の確定②）	理論的背景に関するレジュメ作成
	13	仮説構成と概念操作①	仮説立てに関するレジュメ作成
	14	仮説構成と概念操作②	質問項目立てに関するレジュメ作成
	15	調査対象者及び調査方法の確定①	調査対象者に関する基礎データ探索
	16	調査対象者及び調査方法の確定②	調査方法に関する基礎データ探索
	17	夏季休暇期間中の研究作業に関する報告	進捗報告に関するレジュメ作成
	18	予備調査の報告と内容検討①	予備調査素材のデータベース化
	19	予備調査の報告と内容検討②	予備調査に関する報告レジュメ作成
	20	予備調査の報告と内容検討③	予備調査に関する報告レジュメ作成
	21	本調査に向けての分析枠組みの設定①	分析枠組みに関するレジュメ作成
	22	本調査に向けての分析枠組みの設定②	分析枠組みに関するレジュメ作成
	23	本調査に向けての分析枠組みの設定③	分析枠組みに関するレジュメ作成
	24	本調査に関する研究倫理の確認と手続きのレクチャー①	研究倫理に関する書類作成
	25	本調査に関する研究倫理の確認と手続きのレクチャー②	研究倫理に関する書類の修正
	26	本調査に関する進捗報告と内容検討①	調査に関する報告レジュメ作成
	27	本調査に関する進捗報告と内容検討②	調査に関する報告レジュメ作成
	28	本調査に関する進捗報告と内容検討③	調査に関する報告レジュメ作成
	29	本調査に関する進捗報告と内容検討④	調査に関する報告レジュメ作成
	30	本調査に関する進捗報告と内容検討⑤	調査に関する報告レジュメ作成
	31		

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 友枝敏雄、他、『社会学のカー最重要概念・命題集』、有斐閣、2017年 作田啓一、他、『命題コレクションー社会学』、筑摩書房、1986年 井上俊、他編、『岩波講座現代社会学 1 巻～24巻』、1996年 大谷信介、他、『新・社会調査へのアプローチ理論と方法』、ミネルヴァ書房、2013年 その他、適宜紹介する。 学びの手立て 少人数クラスになるので、基本的に受講生による発表とディスカッションが中心となる。よって、各回の資料、レジュメ等の作成に注力すること。文献・資料は難解であっても、精読すること。また、先行研究や調査のデータベース構築ではコンピュータを活用するので、PCの操作に慣れておくこと。 評価 報告内容（資料・レジュメ作成）50%、報告の姿勢（説明の分かりやすさ）20%、研究への取り組み姿勢（与えられた課題を期限までに準備できるか）30%
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 関連科目：南島社会文化特殊研究Ⅱ 次のステージ：データの収集と整理および解釈の精度を上げる

科目基本情報	科目名 南島先史文化特論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	水 6	2
	担当者 新里 貴之	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	t. shinzato@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 南島先史文化の貝塚時代前期の研究を紹介する。出土遺物から当時の社会や文化について考える。貝塚時代前期の研究について詳細に説明できるようになる。	メッセージ 発掘調査報告書をたくさん読んでもらいます。実際の発掘調査の現場について紹介し、貝塚時代前期社会について一緒に考える講義を行うつもりです。
	到達目標 調査報告書を読解し、正確に把握するとともに、立論の合理性、科学的な表現ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	貝塚時代前期とは	配布資料を精読すること
	2	土器編年	配布資料を精読すること
	3	遺跡立地	配布資料を精読すること
	4	食性	配布資料を精読すること
	5	文化範囲	配布資料を精読すること
	6	南島社会	配布資料を精読すること
	7	貝製品	配布資料を精読すること
	8	骨製品	配布資料を精読すること
	9	交易論	配布資料を精読すること
	10	葬墓制	配布資料を精読すること
	11	面縄貝塚群	配布資料を精読すること
	12	伊是名貝塚	配布資料を精読すること
	13	宇宿貝塚	配布資料を精読すること
	14	シヌグ堂遺跡	配布資料を精読すること
	15	ヌバタキ遺跡	配布資料を精読すること
	16	期末レポート提出	配布資料を精読すること
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。受講者に課題を課し、発表することを計画する。 参考文献 『琉球縄文文化の基礎的研究』伊藤慎二【著】2000年 ミュゼ		
	学びの手立て 履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールにて連絡すること。 ・課題はべ切発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 博物館や各市町村の資料室などを訪ねて資料を見学すること。		
	評価 平常点(50%)、期末レポート(50%)で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「南島先史文化特論Ⅰ・Ⅱ」「南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ」「南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ」「考古学特論Ⅰ・Ⅱ」「南島先史文化特論Ⅰ・Ⅱ」
-------	--

※ポリシーとの関連性		南島文化または周辺地域の文化について専門的な知識を深めるための科目		[一般講義]		
科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位		
	南島先史文化特論Ⅱ	後期	水 6	2		
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ			
	新里 貴之	1 年	t. shinzato@okiu. ac. jp			
学びの準備	ねらい	メッセージ				
	南島先史文化の貝塚時代後期の研究を紹介する。出土遺物から当時の社会や文化について考える。貝塚時代後期の研究について詳細に説明できるようになる。	多くの発掘調査報告書を読み込んでもらいます。実際の発掘調査の現場について紹介し、貝塚時代後期社会について一緒に考える講義を行うつもりです。				
到達目標	調査報告書を読解し、正確に把握するとともに、立論の合理性、科学的な表現ができるようになる。貝塚時代後期の研究について詳細に説明できるようになる。					
学びの実践	学びのヒント					
	授業計画					
	回	テーマ	時間外学習の内容			
	1	貝塚時代後期とは	配布資料を精読すること			
	2	土器編年	配布資料を精読すること			
	3	年代観	配布資料を精読すること			
	4	遺跡の立地	配布資料を精読すること			
	5	ゴホウラ・イモガイ・オオツタノハ交易論	配布資料を精読すること			
	6	ヤコウガイ交易論	配布資料を精読すること			
	7	弥生社会	配布資料を精読すること			
	8	古墳社会	配布資料を精読すること			
	9	南島社会	配布資料を精読すること			
	10	嘉門貝塚B・A	配布資料を精読すること			
	11	安座間原第一・第二遺跡	配布資料を精読すること			
	12	北谷町の遺跡群	配布資料を精読すること			
	13	ナガラ原西貝塚	配布資料を精読すること			
	14	フワガネク遺跡群	配布資料を精読すること			
	15	城久遺跡群	配布資料を精読すること			
	16	期末レポート提出	配布資料を精読すること			
	テキスト・参考文献・資料など	テキストは指定しない。基本的に講義形式で行う。受講者に課題を課し、発表することを計画する。 参考文献 『南島貝文化の研究―貝の道の考古学』木下尚子【著】1996年 法政大学出版局				
	学びの手立て	履修上の心構えとして、以下注意していただきたい。 ・出欠確認を毎回厳格に行うので、やむを得ず遅刻・欠席する場合は、必ず事前にメールにて連絡すること。 ・課題は〆切発表期日厳守の上必ず取り組むこと。 博物館や各市町村の資料室などを訪ねて資料を見学すること。				
評価	平常点(50%)、期末レポート(50%)で評価する。					
学びの継続	次のステージ・関連科目 「南島先史文化特論Ⅰ・Ⅱ」「南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ」「南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ」「考古学特論Ⅰ・Ⅱ」「南島先史文化特論Ⅰ・Ⅱ」					

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島地理学特論Ⅰ	前期	水 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1 年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 人文地理学の基礎的な調査方法について学習し、実際の島嶼地域におけるフィールド実習を実施する中で、実践的な調査の企画・設計、調査結果の分析、集計を経験し、自ら調査できる技術習得を目指す。今年度の実習地域としては、次年度に引き続き、沖縄県国頭村を研究対象地域としてとりあげ、そこにおける人々の生業と社会組織、地域経済の振興についての地域調査を予定している。	メッセージ 地理的なものの見方、考え方を取得するように心がけてください。
	到達目標 地理的な調査手法、分析、地理情報システム(GIS)の扱い方をマスターしてもらう。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学調査入門 地理学調査とは	配布プリントの復習
	2	調査倫理と調査企画・設計(1)	配布プリントの復習
	3	調査企画・設計(2)、仮設構成	配布プリントの復習
	4	調査票の作成(1)	配布プリントの復習
	5	調査票の作成(2)	配布プリントの復習
	6	本島内の地域調査(1) サンプリング、フィールドの選定の実際	配布プリントの復習
	7	本島内の地域調査(2) 実査(1)	調査準備
	8	本島内の地域調査(2) 実査(2)	調査準備
	9	地域調査結果データの整理(1) (エディティング、コーディング)	調査データの整理
	10	地域調査結果データの整理(2) (データクリーニング、フィールドノート作成)	調査データの整理
	11	地域調査結果データの整理(3) (量的分析とグラフ作成)	調査データの整理
	12	地域調査結果データの整理と質的な分析	調査データの整理
	13	報告書作成と地域調査報告会準備 (1)	レポート執筆
	14	報告書作成と地域調査報告会準備 (2)	レポート執筆
	15	地域調査報告会	報告会
	16	全体のまとめ	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 毎回、プリントを配布する。 浮田典良『ジオ・パルNEO 地理学便利帳』海青社、2017年。谷 謙二『フリーGISソフト MANDARA10入門』古今書院 2018年、服部兼敏『地域支援のためのコンパクトGIS 地図太郎入門』2古今書院、2013年。 その他、授業の中でその都度紹介する。		
	学びの手立て 積み上げ式の授業なので、休まないようにしてください。		
	評価 成績は、レポート (5回) 【1回20点×5回＝100点】で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島地理学特論Ⅱ
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島地理学特論Ⅱ	後期	水 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1 年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 南島地理学Ⅱでは、南島地理学Ⅰを基本として、地理情報システムのしくみとその操作方法について学習する。最終的には、各種分布図が独力で作業できるようになることを目標としている。使用ソフトは「MANDARA10」、「今昔マップ」、「地図太郎プラス」など。	メッセージ 地理的なものの見方、考え方を習得するように心がけてください。
	到達目標 地理情報システム (GIS) の基本習得を目指す。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	地理情報システムとは①	プリントによる復習
	2	地理情報システムとは②	プリントによる復習
	3	MANDARAの特色と地図データーさまざまな地図の紹介ー	プリントによる復習
	4	MANDARA10で白地図を作ろう	プリントによる復習
	5	都道府県別の統計地図と表現方法	プリントによる復習
	6	市町村別の統計地図を作ろう	プリントによる復習
	7	国別の出生率を地図化しよう	プリントによる復習
	8	駅別乗車人数を地図化しよう	プリントによる復習
	9	国土数値情報のシェープファイルを使おう	プリントによる復習
	10	点データの読み込みとジオコーディング	プリントによる復習
	11	メッシュデータを地図化しよう	プリントによる復習
	12	国勢調査の小地域データを地図化しよう	プリントによる復習
	13	地図太郎の利用①	プリントによる復習
	14	地図太郎の利用②	プリントによる復習
	15	地図太郎の利用③	プリントによる復習
	16	まとめ	レポート作成
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 毎回、プリントを配布する。 浮田典良『ジオ・パルNEO 地理学便利帳』海青社、2017年。谷 謙二『フリーGISソフト MANDARA10入門増補版』古今書院 2022年、服部兼敏『地域支援のためのコンパクトGIS 地図太郎入門』2古今書院、2013年。 その他、授業の中でその都度紹介する。		
	学びの手立て 積み上げ式の授業なので、休まないようにしてください。毎回授業で習ったGIS操作方法は必ずPC教室で復習すること。		
	評価 成績は、レポート（5回）【20点×5回＝100点で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島地理学特論Ⅰ
-------	-------------------------

※ポリシーとの関連性

南島文化または周辺地域の文化について琉球文学の専門的な知識を身につけ、多様な観点から見る力を養う。

[

／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島文学特論ⅠA	前期	水 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-鈴木 耕太	1 年	講義終了後もしくはメール (kota.s@ken.oki.ac.jp)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	南島の文学について文献だけでなく歌謡の歌われる場などの民俗学的視点、史料学的視点など、総合的にアプローチする力を養い、修士論文執筆に活用する。	「沖縄学」の視点に立ち返り、琉球文学の幅広さと奥深さを理解できるようにする。
到達目標		
	・琉球文学についての基本的な知識を習得し、他分野の研究に結びつける視点を身につけることができる。 ・琉球文学に対して理解を深めることで、古琉球から現代までの時代の流れや文化の流れという連続性を理解することができる。	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球文学概説	配付資料・参考文献の精読
	2	琉球文化圏の年休行事	配付資料・参考文献の精読
	3	年中行事の由来	配付資料・参考文献の精読
	4	まつりと信仰	配付資料・参考文献の精読
	5	御嶽と祈り	配付資料・参考文献の精読
	6	御嶽由来譚（沖縄本島）	配付資料・参考文献の精読
	7	御嶽由来譚（先島地域）	配付資料・参考文献の精読
	8	『おもろさうし』の世界	配付資料・参考文献の精読
	9	『おもろさうし』と航海	配付資料・参考文献の精読
	10	『おもろさうし』と芸能	配付資料・参考文献の精読
	11	南島歌謡の世界（奄美地域）	配付資料・参考文献の精読
	12	南島歌謡の世界（沖縄地域）	配付資料・参考文献の精読
	13	南島歌謡の世界（宮古地方）	配付資料・参考文献の精読
	14	南島歌謡の世界（八重山地方）	配付資料・参考文献の精読
	15	歌謡から見る琉球の心	配付資料・参考文献の精読
	16	総括とレポート提出	レポート準備
テキスト・参考文献・資料など テキスト：なし 参考文献：その都度指示する。『南島歌謡大成』や「琉球文学大系」『おもろさうし』など。			
学びの手立て 沖縄の民族（民俗）文化について興味を持ち、歌謡に用いられる言葉の意味などを辞書などで調べて理解を深めること。			
評価 レポート80％・平常点（授業への取り組みやコメントなど小課題）20％			

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島文学特論ⅠB	後期	水5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-鈴木 耕太	1年	講義終了後もしくはメール (kota.s@ken.oki.gei.ac.jp)	

学びの準備	ねらい 南島の文学について文献だけでなく歌謡の歌われる場などの民俗学的視点、史料学的視点など、総合的にアプローチする力を養い、修士論文執筆に活用する。	メッセージ 琉球文学の中でも芸能と関係の深い文学について考察する。
	到達目標 ・琉球文学についての基本的な知識を習得し、他分野の研究に結びつける視点を身につけることができる。 ・琉球文学と琉球芸能、そして琉球文化の繋がり（連続性）を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	琉球芸能文学概論（近世）	配付資料・参考文献の精読
	2	琉球芸能文学概論（近代）	配付資料・参考文献の精読
	3	琉歌概説―琉歌発生論―	配付資料・参考文献の精読
	4	琉歌における研究史	配付資料・参考文献の精読
	5	琉歌と芸能	配付資料・参考文献の精読
	6	組踊概説	配付資料・参考文献の精読
	7	組踊の上演史（王府から近代）	配付資料・参考文献の精読
	8	組踊講読（執心鐘入 前半）	配付資料・参考文献の精読
	9	組踊講読（執心鐘入 後半）	配付資料・参考文献の精読
	10	組踊講読（テキストと上演の比較：執心鐘入）	配付資料・参考文献の精読
	11	組踊研究（組踊本の校合）	配付資料・参考文献の精読
	12	組踊研究（常套句の使用）	配付資料・参考文献の精読
	13	組踊研究（役名について）	配付資料・参考文献の精読
	14	組踊研究（上演と伝承）	配付資料・参考文献の精読
	15	組踊研究（地方伝播する組踊―文化伝承の視点から―）	配付資料・参考文献の精読
	16	総括とレポート提出	レポート準備
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『組踊の歴史と研究』（鈴木耕太 榕樹書林2022年） 参考文献：琉球文学大系『組踊（上）』、『組踊を聴く』など。その都度指示する。		
	学びの手立て 沖縄の芸能と文学の関係に目を向け、文学作品だけではなく、舞台上演についても興味を持つ。		
	評価 レポート80％・平常点（授業への取り組みやコメントなど小課題）20％		

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文
-------	---------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島方言学特論Ⅰ	前期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1 年	研究室番号：5401 E-mail：kshimoji@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 琉球語圏の言語資料に出てくる文法現象及び単語の意味の分析と考察を通して、琉球語の表現についての知識を得る。その際、日本語学における研究成果を参照して日本語と琉球語の比較研究を行うことにより、両言語についての理解を深める。	メッセージ この授業では、現代日本語共通語との比較を通して琉球語についての言語学的な専門知識を深めていきます。実際の分析・考察の作業を通して、言語研究の面白さを味わってもらえればと思います。
	到達目標 ・琉球語諸方言の表現を正確に理解できる。 ・琉球語と日本語共通語との共通点や相違点を説明できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、授業の進め方について	シラバスを読み授業に備える
	2	琉球語資料の紹介と概要の説明（１）	授業の復習、分析対象資料の選定
	3	琉球語資料の紹介と概要の説明（２）、分析対象資料（テキスト）の決定	授業の復習
	4	文法現象および語の抽出（１）	同上
	5	文法現象および語の抽出（２）	同上
	6	文法現象および語の抽出（３）、分析対象（テーマ）の選定	先行研究の収集とまとめ
	7	語の意味の分析と考察（１）：先行研究まとめ	データの整理
	8	語の意味の分析と考察（２）：データの提示	データの分析と考察
	9	語の意味の分析と考察（３）：報告と質疑応答	報告の振り返り
	10	補足調査のためのデータ収集と確認	先行研究の収集とまとめ
	11	文法現象の分析と考察（１）：先行研究まとめ	データの整理
	12	文法現象の分析と考察（２）：データの提示	データの分析と考察
	13	文法現象の分析と考察（３）：報告と質疑応答 1	報告の振り返り
	14	文法現象の分析と考察（４）：報告と質疑応答 2	報告の振り返り、レポートの作成
	15	補足調査のためのデータ収集と確認	レポートの完成
	16	レポートの提出	授業内容のまとめと振り返り
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 授業内で適宜指示します。		
	まず、会話集や民話集など様々な琉球語資料の中から、分析対象とするテキストを１つ選定する。各担当者でテキスト内の語句と文法現象を抽出して一覧表の形で整理し、それぞれの概要を確認する。その中から、より詳細な分析と考察を行うテーマを、文法現象と語の意味それぞれについて決定する。テーマには、例えば文法現象であれば、格やヴォイスといった文法カテゴリーが考えられる。より絞ったテーマでも構わない。授業では各担当者ごとに、先行研究の収集とまとめ、整理したデータの提示、分析・考察結果の報告を行ってもらう。そして報告内容の質疑応答を通して、自身の理解度や考察不十分な点を確認する。最後に提出するレポートでは、学術誌に投稿できるくらいのレベルを目指してほしい。		
	評価 （１）分析・考察の進め方、報告内容（30%） （２）質疑応答など、授業への積極的な関わり方（20%） （３）レポートの提出とその内容（50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島方言学特論Ⅱ、南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ
-------	---------------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島方言学特論Ⅱ	後期	月 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	下地 賀代子	1 年	研究室番号：5401 E-mail：kshimoji@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	琉球語が現在置かれている状況について正確な知識を得ることを目指す。さらに、これまでに行われてきている琉球語の継承活動の事例についての調査・分析を通して、継承のための具体的な方法を考え、実践を試みる。	琉球語継承のための活動が年々盛んになっています。この授業ではまず、その現状について正しく把握することを目指します。そして、琉球語以外の危機言語とその継承活動の内容（成果と問題点）についても学び、琉球語継承のためにできることを考え、その実践を試みます。危機言語の問題は決して対岸の火事などではありません。より良い実践が生み出されることを期待します。		
到達目標				
	・危機言語としての琉球語の現状について正確に説明できるようになる。 ・言語継承のための問題点を理解し、その解決のための自分なりの意見を持つ。 ・琉球語継承のための方策を考え、実践する。			
学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス、授業の進め方について	シラバスを読み授業に備える	
	2	琉球語の概要のおさらい（１）	授業の復習	
	3	琉球語の概要のおさらい（２）	授業の復習、活動事例の調査	
	4	琉球語の現状と問題点	活動事例の調査、報告の準備	
	5	琉球語の継承活動事例の調査報告（１）	活動事例の調査、報告の準備	
	6	琉球語の継承活動事例の調査報告（２）	活動事例の調査、報告の準備	
	7	琉球語の継承活動事例の調査報告（３）、全体ディスカッション	報告の振り返り	
	8	世界の危機言語と継承活動（１）	授業の復習	
	9	世界の危機言語と継承活動（２）	方策を考える、発表の準備	
	10	琉球語継承のための方策案（１）、質疑応答	方策を考える、発表の準備	
	11	琉球語継承のための方策案（２）、質疑応答	報告の振り返り、計画案の作成	
	12	実践のための計画案	教材、レポート等の作成	
	13	実践のための作業内容の報告（１）	教材、レポート等の作成	
	14	実践のための作業内容の報告（２）	教材、レポート等の作成	
	15	実践のための作業内容の報告（３）	教材、レポート等の作成	
	16	教材、レポート等の提出	授業内容のまとめと振り返り	
	テキスト・参考文献・資料など	授業内で適宜指示します。		
	学びの手立て	危機言語、琉球語の現状と継承活動に関する基本的な知識を身につけたのちに、琉球語継承のための実践案について、具体的な方策を検討してもらう。例えば、学習教材の作成や教育プログラムの構築などが考えられる。なお、これらを授業内で完成させるのは時間的に難しいため、その「素案」を教材やレポートとして提出してもらう。実現可能性、有用性も検証し、琉球語の継承に十分寄与できるような方策の提示を目指す。		
評価	(１) 活動事例の調査とその報告（30%） (２) 質疑応答など、授業への積極的な関わり方（20%） (３) 実践のための作業内容の報告（20%） (４) 教材、レポート等の提出とその内容（30%）			
学びの継続	次のステージ・関連科目 南島方言学特論Ⅰ（前期に受講済みであること）、南島言語文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ			

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島民俗宗教特論Ⅰ	前期	火 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-波平 エリ子	1 年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 南島の民俗研究のなかで、民俗宗教に関する研究の蓄積はきわめて豊富である。本講義では、村落祭祀と信仰の場、祭祀組織、親族組織、シャーマニズムなどのテーマを取り上げ、南島民俗宗教における学びの深化を目指す。	メッセージ 南島の民俗宗教理解の枠組みとして村落祭祀、祭祀組織、親族の機能と構造、霊的職能者、他界観などへの理解をフィールドワークも実施しながら深めていく。尚、フィールドワークについては、受講生との日程調整を行い、実施する予定である。
	到達目標 南島の民俗宗教に関する基礎的な事項を学び、各自が今後取り組むべき研究課題へのアプローチを習得する。	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1, ガイダンス	講義の概要を理解する
	2	2, 村落祭祀(1)：聖地と信仰	文献研究を行う
	3	3, 村落祭祀(2)	文献研究を行う
	4	4, 村落祭祀(3)	文献研究を行う
	5	5, 祭祀と祭祀組織（1）：神人組織と祭祀	文献研究を行う
	6	6, 祭祀と祭祀組織（2）	文献研究を行う
	7	7, 祭祀と祭祀組織（3）	文献研究を行う
	8	8, 親族組織（1）：門中	文献研究を行う
	9	9, 親族組織（2）	文献研究を行う
	10	10, 親族組織（3）	文献研究を行う
	11	11, 親族組織（4）	文献研究を行う
	12	12, シャーマニズム(1)：ユタ	文献研究を行う
	13	13, シャーマニズム(2)	文献研究を行う
	14	14, シャーマニズム（3）	文献研究を行う
	15	15, 総括	講義の振り返りを行う
16	16, 予備日		
テキスト・参考文献・資料など 講義内容と関連する参考文献を適宜紹介する。またフィールドワークのデータを用いながら、講義と演習形式を併用しつつ進める。			
学びの手立て 配布資料を丹念に読んで積極的に議論やフィールドワークへ参加すること。			
評価 課題レポートおよびレジュメ作成と発表(50%)、議論への積極的な取り組みと内容・受講態度(50%)によって評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島民俗宗教特論Ⅱ。沖縄の社会文化領域を中心とする関連科目。
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島民俗宗教特論Ⅱ	後期	火 7	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-波平 エリ子	1 年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 南島の民俗研究のなかで、民俗宗教に関する研究の蓄積はきわめて豊富である。本講義では、先学の多様な研究の成果を踏まえつつ、家族・親族における元祖祭祀を中心に、沖縄民俗宗教の先祖観について研究の深化を目指す。	メッセージ 南島の民俗宗教の先行研究を取り上げたうえで、現代の家族・親族、先祖祭祀についての研究を深化させる。講義に関連するフィールドワークを行うが、受講生との日程調整を行い、実施する予定である。
	到達目標 南島の民俗宗教研究史について理解し、先祖祭祀に関する専門的知識を深め、各自が今後取り組むべき修士論文への手がかりや調査手法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	1, ガイダンス	講義の概要を理解する
	2	2, 沖縄民俗宗教研究（1）：柳田国男他	文献研究を行う
	3	3, 沖縄民俗宗教研究（2）	文献研究を行う
	4	4, 沖縄民俗宗教研究（3）	文献研究を行う
	5	5, 沖縄民俗宗教研究（4）	文献研究を行う
	6	6, 沖縄民俗宗教研究（5）	文献研究を行う
	7	7, 沖縄親族研究（1）：家族・親族・元祖	文献研究を行う
	8	8, 沖縄親族研究（2）	文献研究を行う
	9	9, 沖縄親族研究（3）	文献研究を行う
	10	10, 沖縄親族研究（4）	文献研究を行う
	11	11, 祖先祭祀研究（1）：位牌継承の諸相	文献研究を行う
	12	12, 祖先祭祀研究（2）	文献研究を行う
	13	13, 祖先祭祀研究（3）	文献研究を行う
	14	14, 祖先祭祀研究（4）	文献研究を行う
	15	15、総括	講義の振り返りを行う
	16	16、予備日	
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 講義内容と関連する文献を適宜紹介する。またフィールドワークのデータを用いながら、講義と演習形式を併用しつつ進める。		
	学びの手立て 文献資料を丹念に読んで積極的に議論へ参加し、常に各自の修士論文に活かす視点を持つようにする。		
	評価 課題レポートおよびレジュメ作成と発表(50%)、積極的な議論への取り組みと内容・受講態度(50%)によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 修士論文。
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島民俗特論Ⅰ	前期	金 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-赤嶺 政信	1 年	agarijinan@gmail.com	

学びの準備	ねらい 本講義では、民俗学の視点からみた南島（沖縄）の社会と文化に関わる諸課題についてとりあげ、講義を行います。最初に民俗学の方法論や日本民俗学の学史における沖縄の位置付けについて概説を行ったうえで、沖縄の民俗研究で論点となっている具体的な課題についてとりあげていきます。琉球国という国家体制が民俗の形成や変容等に及ぼした影響についても、受講生の注意を喚起します。	メッセージ ①沖縄の民俗文化について関心があり、それを学ぶ意欲のある学生の受講を歓迎します。 ②沖縄の祭祀を中心にした映像資料を積極的に活用します。 ③日帰りの久高島巡見を実施します。 ④沖縄における民俗研究と歴史研究の接点について注意を向けます
	到達目標 ①民俗学の方法論や日本民俗学の学史における沖縄の位置付けについて理解できるようになること。 ②沖縄の民俗研究において論点となっているいくつかの課題について理解できるようになること。 ③琉球国という国家体制が民俗事象に及ぼした影響について理解できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスの内容を確認する
	2	日本民俗学の方法論	民俗学の方法論について予習する
	3	柳田国男の民俗学と沖縄	柳田國男について予習する
	4	沖縄における祖先祭祀の成立	祖先祭祀について予習する
	5	久高島の祭祀（映像鑑賞）	久高島について予習する
	6	久高島巡見	久高島について予習する
	7	国家祭祀としての久高島のイザイホウ	イザイホウについて予習する
学びの実践	8	沖縄の神女組織	神女組織について予習する
	9	沖縄の門中	門中について予習する
	10	沖縄の津波に関する伝承	津波伝承について予習する
	11	八重山黒島の豊年祭	豊年祭について予習する
	12	村の掟と制裁	村の制裁について予習する
	13	沖縄の霊魂観と他界観	霊魂観について予習する
	14	仮面と来訪神	来訪神について予習する
	15	海をめぐる民俗文化	海に関わる民俗について予習する
	16	まとめ	学習したことについて確認する
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献 赤嶺政信『シマの見る夢ーおきなわ民俗学散歩ー』ボーダーインク		
学びの実践	学びの手立て 講義内容と関係する文献を適宜紹介して、理解の深化を促す。		
	評価 平常点（３０％）、課題レポート（７０％）によって評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 南島民俗宗教特論Ⅰ・Ⅱ、東アジア文化人類学ⅠＡ・ⅠＢ、東アジア文化人類学Ⅱ・Ⅲ、南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ、地理教育学特論
-------	---

※ポリシーとの関連性		本ゼミは、民俗文化領域において「沖縄の民俗」に関する基本的な理解を提供する科目である。		[一般講義]	
科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位	
	南島民俗特論Ⅱ	後期	金 6	2	
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ		
	-赤嶺 政信	1 年	agarijinan@gmail.com		
学びの準備	ねらい	メッセージ			
	本講義では、民俗学の視点からみた南島（沖縄）の社会と文化に関わる諸課題についてとりあげ、講義を行います。最初に民俗学の方法論や日本民俗学の学史における沖縄の位置付けについて概説を行ったうえで、沖縄の民俗研究で論点となっている具体的な課題についてとりあげていきます。琉球国という国家体制が民俗の形成や変容等に及ぼした影響についても、受講生の注意を喚起します。	①沖縄の民俗文化について関心があり、それを学ぶ意欲のある学生の受講を歓迎します。 ②沖縄の祭祀を中心にした映像資料を積極的に活用します。 ③日帰りの久高島巡見を実施します。 ④沖縄における民俗研究と歴史研究の接点について注意を向けます			
学びの準備	到達目標				
	①民俗学の方法論や日本民俗学の学史における沖縄の位置付けについて理解できるようになること。 ②沖縄の民俗研究において論点となっているいくつかの課題について理解できるようになること。 ③琉球国という国家体制が民俗事象に及ぼした影響について理解できるようになること。				
学びの実践	学びのヒント				
	授業計画				
	回	テーマ	時間外学習の内容		
	1	ガイダンス	シラバスの内容を確認する		
	2	民俗学の方法論－トウハシリを事例に－	民俗学の方法論について予習する		
	3	女性とケガレ	女性とケガレについて予習する		
	4	民家等に見られる沖縄の世界観	沖縄の民家について予習する		
	5	沖縄における祖先観の変遷－盆行事をめぐって－	沖縄の祖先観について予習する		
	6	呪いの民俗	呪いについて予習する		
	7	久高島巡見	久高島について予習する		
	8	ジェンダー的視点からみた沖縄の社会と文化	ジェンダーについて予習する		
	9	鬼餅・正月行事の背景	正月行事について予習する		
	10	王権にまなざされた島－久高島－	王権について予習する		
	11	キジムナー伝説の諸相	キジムナーについて予習する		
	12	建築儀礼に見える自然観	建築儀礼について予習する		
	13	地割制社会における家－久高島の事例を通して－	地割制について予習する		
	14	沖縄の婚姻習俗をめぐって	婚姻習俗について予習する		
	15	沖縄の死生観	死生観について予習する		
	16	まとめ	学習してきたことについて確認する		
	学びの実践	テキスト・参考文献・資料など			
参考文献 赤嶺政信『シマの見る夢－おきなわ民俗学散歩－』ボーダーインク					
学びの実践	学びの手立て				
	講義内容と関係する文献を適宜紹介して、理解の深化を促す。				
学びの実践	評価				
	平常点（３０％）、課題レポート（７０％）によって評価する。				
学びの継続	次のステージ・関連科目				
	南島民俗宗教特論Ⅰ・Ⅱ、東アジア文化人類学ⅠＡ・ⅠＢ、東アジア文化人類学Ⅱ・Ⅲ、南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ、地理教育学特論				

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島民俗文化特殊研究Ⅰ	通年	水 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1 年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本ゼミの主眼は、「南島民俗文化」を研究するための基礎知識を身に着け、南島民俗文化研究の概観を理解することにある。こうした作業を通じて、各受講生の問題意識を深め、研究主題と方法の確立をめざす。また、年度後半には次年度の修士論文執筆に向けた論文構想・構成についても議論を深める。	論文執筆は決して容易な作業ではない。しかし、基礎知識の学習、先行研究の読解、論文構想・構成、調査・データ収集、考察・分析という系統的なプロセスを学ぶことは、各自の研究活動のみならず、社会・文化を理解し行動する姿勢においても、極めて意義深いものである。「南島民俗文化」の理解を、いかに発展させるかを常に意識した学びを実践してほしい。
	到達目標	
	南島民俗文化研究の基礎を学び、修士論文の執筆に向けて、自身の研究テーマ・課題を構想・構成できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の概要を理解する
	2	論文作成の作法（１）	論文作成の作法を整理する
	3	論文作成の作法（２）	論文作成の作法を整理する
	4	個人発表（１）：調査・研究の振り返り	各自の調査・研究を整理する
	5	個人発表（２）：調査・研究の振り返り	各自の調査・研究を整理する
	6	沖縄民俗研究の概観（１）	研究史と現在の研究動向を学ぶ
	7	沖縄民俗研究の概観（２）	研究史と現在の研究動向を学ぶ
	8	沖縄民俗研究の概観（３）	研究史と現在の研究動向を学ぶ
	9	文献資料読解（１）	文献を読み込み要約する
	10	文献資料読解（２）	文献を読み込み要約する
	11	文献資料読解（３）	文献を読み込み要約する
	12	文献資料読解（４）	文献を読み込み要約する
	13	個人発表（３）：修論構想	修論の構成を立てる
	14	個人発表（４）：修論構想	修論の構成を立てる
	15	前期のまとめ	前期の学習内容を振り返る
	16	ガイダンス	講義の概要を理解する
	17	調査成果報告（１）	調査成果の発表準備をする
	18	調査成果報告（２）	調査成果の発表準備をする
	19	調査成果報告（３）	調査成果の発表準備をする
	20	文献資料読解（５）	文献を読み込み要約する
	21	文献資料読解（６）	文献を読み込み要約する
	22	文献資料読解（７）	文献を読み込み要約する
	23	文献資料読解（８）	文献を読み込み要約する
	24	文献資料読解（９）	文献を読み込み要約する
	25	文献資料読解（10）	文献を読み込み要約する
	26	個人発表（５）：修論論点整理	論点を整理する
	27	個人発表（６）：修論論点整理	論点を整理する
	28	修論概要作成（１）	修論概要を作成する
	29	修論概要作成（２）	修論概要を作成する
	30	まとめ	後期の学習内容を振り返る
	31	（予備日）	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜、紹介する。
	学びの手立て 本ゼミは「南島民俗文化」に関する修士論文を作成するための基礎的な科目であるが、受講生には専攻・領域を問わず、南島文化研究科の関連諸科目を積極的に履修することを勧める。加えて、「南島民俗文化」に対する各受講生の理解を深化させることが、各自のキャリア形成においてどのような意味を持ち、そして沖縄の社会・文化へどのような貢献が可能かという問題意識を常にもちながら、本ゼミを履修してほしい。
	評価 受講生の真摯な研究態度と調査への取り組みが基本条件である。学期末に課題レポートを提出させるとともに、修士論文作成に向けた各受講生の学習・研究姿勢そして実際の取り組みを、総合的に評価する。 (期末レポート〔修論概要＋α〕：70点／平常点：30点)
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ、南島民俗宗教特論Ⅰ・Ⅱ、東アジア文化人類学特論ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲほか。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島民俗文化特殊研究Ⅱ	通 年	水 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	2 年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本ゼミの内容は、修士論文作成のための指導が中心となる。前年度書いた「修士論文概要」に沿って、各受講生の研究テーマに関する先行研究や関連文献の読み込みを進め、調査内容および資料整理とその分析・提示・論理展開等について、指導する。	メッセージ 修士論文の執筆は決して容易な作業ではない。しかし、基礎知識の学習、先行研究の読解、論文構想・構成、調査・データ収集、考察・分析という一連のプロセスを学ぶことは、各自の研究活動のみならず、社会・文化を理解しそれを実践していく上でも、極めて意義深いものである。「南島民俗文化」の理解を、いかに発展させるかを常に意識した学びを実践してほしい。
	到達目標 本ゼミの到達目標は、修士論文作成にある。 事例報告・事例研究に止まらず、南島民俗文化研究における各自に研究の位置づけ明確に意識して、修士論文を完成させる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	2	論文作成の作法（１）	論文作成の作法を整理する。
	3	論文作成の作法（２）	論文作成の作法を整理する。
	4	調査成果報告・検討（１）	調査成果報告を準備する。
	5	調査成果報告・検討（２）	調査成果報告を準備する。
	6	調査成果報告・検討（３）	調査成果報告を準備する。
	7	調査成果報告・検討（４）	調査成果報告を準備する。
	8	修論構成の再検討（１）	修論構成を再検討する。
	9	修論構成の再検討（２）	修論構成を再検討する。
	10	修論構成の再検討（３）	修論構成を再検討する。
	11	中間報告会準備（１）	中間報告を準備する。
	12	中間報告会準備（２）	中間報告を準備する。
	13	中間報告会準備（３）	中間報告を準備する。
	14	中間報告会準備（４）	中間報告を準備する。
	15	まとめ	全体の講義内容を復習する。
	16	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	17	補足調査成果報告・検討（１）	補足調査の報告を準備する。
	18	補足調査成果報告・検討（２）	補足調査の報告を準備する。
	19	補足調査成果報告・検討（３）	補足調査の報告を準備する。
	20	補足調査成果報告・検討（４）	補足調査の報告を準備する。
	21	修論草稿推敲・論旨検討（１）	修論草稿を推敲する。
	22	修論草稿推敲・論旨検討（２）	修論草稿を推敲する。
	23	修論草稿推敲・論旨検討（３）	修論草稿を推敲する。
	24	修論草稿推敲・論旨検討（４）	修論草稿を推敲する。
	25	修論仮提出原稿の検討（１）	仮提出原稿を執筆する。
	26	修論仮提出原稿の検討（２）	仮提出原稿を執筆する。
	27	修論仮提出原稿の検討（３）	仮提出原稿を執筆する。
	28	修論仮提出原稿の検討（４）	仮提出原稿を執筆する。
	29	修論最終試験対策（１）	修論最終試験に備える。
	30	修論最終試験対策（２）	修論最終試験に備える。
	31	（予備日）	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で適宜、紹介する。
	学びの手立て 本ゼミは「南島民俗文化」に関する修士論文を作成するための基礎的な科目であるが、受講生には専攻・領域を問わず、南島文化研究科の関連諸科目を積極的に履修することを勧める。加えて、「南島民俗文化」に対する各受講生の理解を深化させることが、各自のキャリア形成においてどのような意味を持ち、そして沖縄の社会・文化へどのような貢献が可能かという問題意識を常にもちながら、本ゼミを履修してほしい。
	評価 受講生の真摯な研究態度と調査・論文執筆への取り組みが基本条件である。修士論文作成に向けた各受講生の学習・研究姿勢そして修士論文の最終的な内容をもとに、総合的に評価する。修士論文内容（70%）、平常点（30%）
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ、南島民俗宗教特論Ⅰ・Ⅱ、東アジア文化人類学特論ⅠA・ⅠB・Ⅱ・Ⅲほか。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島歴史文化特殊研究Ⅰ	通年	木 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	1 年	水曜日 2 限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	修士論文を作成するための基礎的な作業を指導する。論文テーマの設定、先行研究の批判的検討および引用史料の解釈の検証、研究史の整理と問題点の抽出、論文における課題の明確化などである。修士論文の構想、研究史の整理について数回にわたって報告してもらいます。	県内外の図書館などの機関で史料を閲覧することはもちろん、博物館の企画展や自身のテーマに関係する場に足を運んで琉球史をめぐるモノや現場に接すること、学内外の研究会やシンポジウムに参加して雰囲気や議論に触れることは研究者としての財産になります。積極的に関連情報を収集して行動に移してください。
	到達目標	
	・先行研究を踏まえ、修士論文における課題を明確化できるようになる。 ・修士論文の仮の章立てを作成できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、年間スケジュールの確認	到達目標を理解する
	2	卒業論文の概要①—先行研究と課題—	卒業論文の課題を再確認する
	3	同②—引用史料と結論—	卒業論文の結論を再確認する
	4	修士論文に向けて—テーマと問題意識—	修士論文のテーマを確認する
	5	先行研究の読み合わせ①—論文の読み方—	当該論文の参考文献にあたる
	6	同②—当該論文の課題—	当該論文の参考文献にあたる
	7	同③—当該論文の結論—	当該論文の参考文献にあたる
	8	同④—当該論文の参考文献—	参考文献を系統的に把握する
	9	同⑤—当該論文の引用史料—	引用史料をリスト化する
	10	同⑥—引用史料の読み下し文の検証—	引用史料を繰り返し読む
	11	同⑦—引用史料の現代語訳の検証—	引用史料の文意をおさえる
	12	同⑧—当該論文の特徴—	当該論文の到達点を把握する
	13	修士論文の構想①—テーマの設定—	修士論文のテーマを再確認する
	14	修士論文の構想②—先行研究との関係—	先行研究との関係を再確認する
	15	修士論文の構想③—引用史料の見通し—	核となる史料をピックアップする
	16	夏季休暇中の調査研究計画の確認	調査研究計画を練り直す
	17	夏季休暇中の調査研究について報告	報告の準備をする
	18	研究史の整理①—先行研究一覧の作成 1）—	先行研究を網羅的に把握する
	19	同②—先行研究一覧の作成 2）—	先行研究を網羅的に把握する
	20	同③—引用史料リストの作成 1）—	関連史料を網羅的に把握する
	21	同④—引用史料リストの作成 2）—	関連史料を網羅的に把握する
	22	同⑤—史料の選定と読解 1）—	史料を繰り返し読む
	23	同⑥—史料の選定と読解 2）—	史料を繰り返し読む
	24	同⑦—先行研究の到達点 1）—	先行研究の到達点を理解する
	25	同⑧—先行研究の到達点 2）—	先行研究の到達点を理解する
	26	同⑨—先行研究の問題点 1）—	先行研究の問題点を理解する
	27	同⑩—先行研究の問題点 2）—	先行研究の問題点を理解する
	28	修士論文の構想④—課題の設定 1）—	先行研究を踏まえ課題を設定する
	29	同⑤—課題の設定 2）—	先行研究を踏まえ課題を設定する
	30	同⑥—章立て（仮）の作成—	論点を意識した章立てを作成する
	31	春季休暇中の調査研究計画の確認	修士論文の課題を文章化する

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】教科書は使用しません。前期に読み合わせる論文は受講生と相談のうえ決定します。 【参考文献】受講生の関心に応じてその都度紹介します。『回顧と展望』は刊行され次第目を通してください。
	学びの手立て 先行研究の把握と批判的検討に寸暇を惜しまずつとめてください。
	評価 先行研究の到達点と問題点の理解度（60％）、史料の選定と読解に取り組む姿勢（40％）によって総合的に評価する。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 次年度での修士論文執筆に向け、短期間ごとに自身の達成目標を立てたうえで調査研究に取り組んでください。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	南島歴史文化特殊研究Ⅱ	通年	月 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	深澤 秋人	2 年	水曜日 2 限のオフィスアワーに研究室（5 4 2 2）で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 修士論文の完成を目指した指導をする。章立てと問題意識の再確認、中間発表会で指摘された問題点を反映を含めた本論の充実、課題と結論の整合性および明確化などである。章立てに基づき、序論、本論（特に重要な章もしくは節）、結論について数回にわたって報告してもらいます。	メッセージ 学内外の研究会やシンポジウムに積極的に参加し、できれば発言・質問することを自らに課してください。
	到達目標 修士論文を作成するうえで、先行研究を踏まえた課題を設定し、関連史料を適切・効果的に用い、説得力のある結論を導き出すことができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション、年間スケジュールの確認	到達目標を理解する
	2	春季休暇中の調査研究について報告	報告の準備をする
	3	修士論文の構成一章立てと問題意識の再確認ー	章立ての再構成を試行する
	4	序論について①ー研究史の整理ー	先行研究を再確認する
	5	同②ー課題の明確化 1）ー	先行研究の課題と結論を把握する
	6	同③ー課題の明確化 2）ー	先行研究の課題と結論を把握する
	7	本論について①ー前半の引用史料の読み下し 1）ー	史料を繰り返し読む
	8	同②ー前半の引用史料の読み下し 2）ー	史料を繰り返し読む
	9	同③ー前半の引用史料の現代語訳 1）ー	史料の文意をおさえる
	10	同④ー前半の引用史料の現代語訳 2）ー	史料の文意をおさえる
	11	同⑤ー前半の論点の確認 1）ー	論点をより明確にする
	12	同⑥ー前半の論点の確認 2）ー	論点をより明確にする
	13	同⑦ー前半の論点の確認 3）ー	論点をより明確にする
	14	中間発表会に向けた準備①ー報告箇所の決定ー	中間発表会の準備を進める
	15	同②ー報告内容の確認ー	中間発表会の準備を進める
	16	夏季休暇中の調査研究計画の確認	修士論文の下書きを開始する
	17	夏季休暇中の調査研究について報告	報告の準備をする
	18	本論について⑧ー前半と後半の整合性の確認ー	前半と後半の構成を確認する
	19	同⑨ー後半の引用史料の読み下し 1）ー	史料を繰り返し読む
	20	同⑩ー後半の引用史料の読み下し 2）ー	史料を繰り返し読む
	21	同⑪ー後半の引用史料の現代語訳 1）ー	史料の文意をおさえる
	22	同⑫ー後半の引用史料の現代語訳 2）ー	史料の文意をおさえる
	23	同⑬ー後半の論点の確認 1）ー	論点をより明確にする
	24	同⑭ー後半の論点の確認 2）ー	論点をより明確にする
	25	同⑮ー後半の論点の確認 3）ー	論点をより明確にする
	26	結論について①ー結論の明確化 1）ー	課題を再確認する
	27	同②ー結論の明確化 2）ー	前半の論点を再確認する
	28	同③ー結論の明確化 3）ー	後半の論点を再確認する
	29	同④ー課題との整合性の確認ー	課題と結論を再確認する
	30	同⑤ー結論の最終確認ー	課題と結論を再確認する
	31	まとめ	修士論文を推敲する

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】教科書は使用しません。レジュメや図表などは必要に応じて配布します。 【参考文献】先行研究の紹介などは個別に対応します。『回顧と展望』は刊行され次第目を通してください。
	学びの手立て 踏まえるべき先行研究での結論と序論の整合性を批判的に読み込んでください。
	評価 修士論文の作成や報告に取り組む姿勢（４０％）と論文の完成度（６０％）によって総合的に評価します。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 修士論文の内容を学外の研究会で報告すること、学術雑誌に投稿することを意識してください。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本近現代文学特論ⅠA	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安 志那	1 年	9号館605研究室、ahn@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 文学研究の基礎と理論的な流れを理解する。 「外地」の日本語文学テキストを読む視点と方法を学ぶ。	メッセージ 本科目では「外地」の日本語文学テキストを中心として社会的な背景とテキスト分析を実施する。 受講生は口頭発表とディスカッションを行う。
	到達目標 本科目では「外地」の日本語文学テキストを中心として社会的な背景とテキスト分析を実施する。 受講生は口頭発表とディスカッションを行う。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んで来る
	2	小説と時代を読む	教材を読んでくる
	3	『オリエンタリズムの彼方へ』①	教材を読んでくる
	4	『オリエンタリズムの彼方へ』②	教材を読んでくる
	5	『単一民族神話の起源』①	教材を読んでくる
	6	『単一民族神話の起源』②	教材を読んでくる
	7	『昭和の十四年間』①	教材を読んでくる
学びの実践	8	『昭和の十四年間』②	教材を読んでくる
	9	『近代文学の「朝鮮」体験』①	教材を読んでくる
	10	『近代文学の「朝鮮」体験』②	教材を読んでくる
	11	湯浅克衛「カンナニ」	テキスト分析
	12	『異郷の昭和文学』①	教材を読んでくる
	13	『異郷の昭和文学』②	教材を読んでくる
	14	伊藤永之助「万宝山」	テキスト分析
	15	李泰俊「農軍」	テキスト分析
	16	まとめ	授業の復習
	テキスト・参考文献・資料など 小熊英二『単一民族神話の起源』新曜社 ほか、必要に応じて指示する。		
学びの実践	学びの手立て 指定されたテキストや論文は必ず読み、ディスカッションには積極的に参加すること。 毎時間、発表担当者を設ける。		
	評価 ディスカッション40%、発表60%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 文学研究における多様な視座を獲得する。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本近現代文学特論ⅠB	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	安 志那	1 年	9号館605研究室、ahn@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい 先行研究を読み、テキスト分析の取り組み方を理解する。 一カ国に限定されない文学研究の視座を模索する。 テキスト分析を実施する。	メッセージ 本科目では学んだことを踏まえて、自らテキストを選定し、分析する。		
	到達目標 社会学・歴史学など多様な先行研究の成果を取り入れて個々のテキストの分析を実施する。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス	シラバスを読んで来る	
	2	『＜日本人＞の境界 沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮 植民地支配から復帰運動まで』①	レジュメの作成	
	3	『＜日本人＞の境界 沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮 植民地支配から復帰運動まで』②	レジュメの作成	
	4	『＜日本人＞の境界 沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮 植民地支配から復帰運動まで』③	レジュメの作成	
	5	『＜日本人＞の境界 沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮 植民地支配から復帰運動まで』④	レジュメの作成	
	6	『ポストコロニアル』①	レジュメの作成	
	7	『ポストコロニアル』②	レジュメの作成	
	8	大鹿卓「野蛮人」	レジュメの作成	
	9	牛島春子「ある旅」	レジュメの作成	
	10	対象テキストの選定	分析対象のテキストを選定する	
	11	論点・視座・先行研究の確認	時代背景を調べる	
	12	先行研究の整理	分析の方向性を決める	
	13	テキストの分析①	対象テキストの分析を行う	
	14	テキストの分析②	対象テキストの分析を行う	
	15	テキストの分析③	対象テキストの分析を行う	
	16	まとめ	授業の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 小熊英二『＜日本人＞の境界 沖縄・アイヌ・台湾・朝鮮 植民地支配から復帰運動まで』新曜社、1998。 小森陽一『ポストコロニアル』岩波書店、2001。 ほか、必要に応じて指示する。			
	学びの手立て 指定されたテキストや論文は必ず読み、ディスカッションには積極的に参加すること。 毎時間、レジュメを提出する。			
	評価 レジュメ40%、発表60%。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 実際の論文執筆に生かす。			

科目基本情報	科目名 日本近現代文学特論ⅡA	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	火 5	2
	担当者 村上 陽子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	5号館404研究室 y.murakami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 文学研究の基礎を学び直し、分析に有用な理論と視点を培う。	メッセージ 本科目では日本近現代文学を用いて前文学理論の活用法を学習していく。 受講生にはレジュメの作成及び口頭発表を義務づける。
	到達目標 文学理論の基礎的内容を理解し、テキスト分析に生かせるようになる。 対象とする作家の文学的傾向や同時代状況、先行研究について適切に理解できるようになる。 文学テキストの分析の方向性を定める。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んてくる
	2	金井美恵子「兎」	指定図書を読んてくる
	3	論文読解	指定図書を読んてくる
	4	村上春樹「レキシントンの幽霊」	指定図書を読んてくる
	5	論文読解	指定図書を読んてくる
	6	村上春樹「七番目の男」	指定図書を読んてくる
	7	論文読解	指定図書を読んてくる
	8	松浦理英子「犬身」	指定図書を読んてくる
	9	論文読解	指定図書を読んてくる
	10	多和田葉子「献灯使」	指定図書を読んてくる
	11	論文読解	指定図書を読んてくる
	12	個人発表	指定図書を読んてくる
	13	個人発表	指定図書を読んてくる
	14	個人発表	指定図書を読んてくる
	15	まとめ	指定図書を読んてくる
	16	予備日	レポート作成
	テキスト・参考文献・資料など 武内佳代『クィアする現代日本文学 ケア・動物・語り』（青弓社） ほか、必要に応じて指示する		
	学びの手立て ①履修の心構え 指定されたテキストや論文は必ず事前に読んてくること。また授業時には積極的に発言すること。 ②学びを深めるために 授業時間中に提示された関連文献などを読み、幅広い知識の習得を心がけること。		
	評価 授業内でのディスカッション50%、発表50%。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 同時代評・同時代状況・先行研究を網羅した上でテキスト分析の方向性を決定していく。
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本近現代文学特論Ⅱ B	後期	火 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	1 年	5号館404研究室、y.murakami@okuu.ac.jp	
学びの準備	ねらい 対象とする作家の人生や文学的傾向、思想などについて適切に理解し、現在における意義を見出す。 個々のテキストの背後に広がる諸問題について整理して考察する。 実際にテキスト分析を進めていく。	メッセージ 本科目では個々の受講生の要望に応じてテキストを選定する。 対象テキストの問題点をピックアップした上でそれに関連する論文を精読し、新たな問題点の提示やテキスト読解につなげていく。		
	到達目標 作家、同時代状況、先行研究を踏まえた上で個々のテキストの詳細な分析を実践する。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	対象テキスト選定	扱いたいテキストを挙げる	
	2	問題点ピックアップ	テキストの問題点整理	
	3	関連文献講読①	指定図書を読んでくる	
	4	関連文献講読②	指定図書を読んでくる	
	5	関連文献講読③	指定図書を読んでくる	
	6	先行研究論点整理	先行研究を集める	
	7	新たな問題点、論点の提示	先行研究を読んでくる	
	8	時代背景の考察①	テキストの時代背景を調べる	
	9	時代背景の考察②	テキストの時代背景を調べる	
	10	個人発表	発表準備	
	11	個人発表	発表準備	
	12	個人発表	発表準備	
	13	個人発表	発表準備	
	14	個人発表	発表準備	
	15	個人発表	発表準備	
	16	予備日	講義の復習	
	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。			
	学びの手立て ①履修の心構え 指定されたテキストや論文は必ず事前に読んでくること。また、ディスカッション時には積極的に発言すること ②学びを深めるために 授業時間中に提示された関連文献などを読み、幅広い知識の習得を心がけること。			
	評価 講義時のディスカッション50%、発表50%。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 次のステージ 本科目で得たスキルを実践的な論文執筆に生かしていく。			

[演習]

学 び の	ねらい 同時代状況や先行研究の要旨を正しく把握する。 論理的な文章を書く。 修士論文の構成を明確にする。	メッセージ 課題となる論文・テキストは事前に読んできてください。 また、受講生にはレジュメの作成及び口頭発表を義務づけます。
-------------	--	--

学びのヒント <u>授業計画</u>		
回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	シラバスを読んでくる
2	研究計画・テキスト選定	研究計画書の作成

1 / 2

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 三原芳秋・渡邊英理・鶴戸聡ほか『クリティカル・ワード 文学理論 読み方を学び文学と出会いなおす』フィルムアート社 門林岳史・増田展大ほか『クリティカル・ワード メディア論』フィルムアート社 ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』青土社 竹村和子『愛について アイデンティティと欲望の政治学』岩波現代文庫 石原千秋・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋修・高橋世織『読むための理論』世織書房
	学びの手立て ①履修の心構え 修士論文完成を目指し、理論的・歴史的資料を踏まえたテキストの読みを形成する。 ②学びを深めるために 講義中に提示された書籍・論文などを読み、幅広い知識の習得を心がけること。
	評価 研究計画20％・発表30％・レポート50％。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 紀要・学会誌等への論文投稿。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本言語文化特殊研究Ⅰ	通年	月 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1 年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 日本の言語文化と教育について、文献調査、実地調査等を通して明らかにしていく。特に古典文学と日本の言語文化が教育にどのような影響を与えてきたのかについて、古典テキストの読解、分析を通して検討していく。修士論文作成に係る研究計画の具体化をはかり、論文執筆に向けた課題研究発表を毎時間行う。	メッセージ インプットとアウトプットを意識して課題に取り組もう。データの収集と考察はセットである。狭く入って広く出る。課題は砕き、具体的、実践的な検証を心がけよう。悠々として急げ。
	到達目標 日本言語文化に関わる調査・研究の方法を身に付け、学術論文の作成ができるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	2	論文作成方法①	論文作成方法の視点を整理する。
	3	論文作成方法②	論文作成方法の視点を整理する。
	4	文献検索方法①	文献検索方法を実践する。
	5	文献検索方法②	文献検索方法を実践する。
	6	実地調査方法①	実地調査方法を復習する。
	7	実地調査方法②	実地調査方法を復習する。
	8	先行研究等資料読解①	レジュメの作成・準備。
	9	先行研究等資料読解②	レジュメの作成・準備。
	10	先行研究等資料読解③	レジュメの作成・準備。
	11	先行研究等資料読解④	レジュメの作成・準備。
	12	先行研究等資料読解⑤	レジュメの作成・準備。
	13	課題レポート発表①	レジュメの作成・準備。
	14	課題レポート発表②	レジュメの作成・準備。
	15	まとめ	講義内容を振り返り復習する。
	16	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	17	実地調査の報告①	レジュメの作成・準備。
	18	実地調査の報告②	レジュメの作成・準備。
	19	実地調査の報告③	レジュメの作成・準備。
	20	先行研究等資料読解⑥	レジュメの作成・準備。
	21	先行研究等資料読解⑦	レジュメの作成・準備。
	22	先行研究等資料読解⑧	レジュメの作成・準備。
	23	修士論文のアウトライン構想①	レジュメの作成・準備。
	24	修士論文のアウトライン構想②	レジュメの作成・準備。
	25	修士論文のアウトライン構想③	レジュメの作成・準備。
	26	修士論文における独創的意見の要件①	レジュメの作成・準備。
	27	修士論文における独創的意見の要件②	レジュメの作成・準備。
	28	修士論文における独創的意見の要件③	レジュメの作成・準備。
	29	修士論文の概要作成①	レジュメの作成・準備。
	30	修士論文の概要作成②	レジュメの作成・準備。
	31	修士論文の概要作成③	レジュメの作成・準備。

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 講義中に適宜紹介する。
	学びの手立て ほぼ毎回、レジュメ作成を課すが、課題意識に基づいて進めていく。文献調査だけに限らず、広い意味でフィールドワークをとらえ、学校教育の現場や資料館、博物館、劇場などの様々な資料調査を行うことを心掛けてほしい。また、感染予防対策等に配慮して、修士論文作成に関わる研究旅行も計画する予定である。その都度、考えたこと、感じたこと、導き出したことを言語化して残すことを心がけよう。
	評価 作成したレジュメ等レポート課題（５０％）、授業への参加状況・討論内容等（５０％）
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 日本古典文学特論ⅠＡ・ⅠＢ、国語科教育学特論Ⅰ・Ⅱ、南島芸能特論Ⅰ・Ⅱ。中間発表以外に、各種紀要等への投稿も目指したい。また、関係学会、研究会等への参加によって研究の視野を広げたい。

科目基本情報	科目名 日本語文化特殊研究Ⅰ	期 別 通年	曜日・時限 水 4	単 位 4
	担当者 桃原 千英子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年		
	学びの準備	ねらい	メッセージ	
到達目標				
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	テキスト・参考文献・資料など			
	学びの手立て			
学びの継続	評価			
	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名 日本語文化特殊研究Ⅱ	期 別 通年	曜日・時限 水 4	単 位 4
	担当者 桃原 千英子	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2 年		
	学びの準備	ねらい	メッセージ	
到達目標				
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	テキスト・参考文献・資料など			
	学びの手立て			
	評価			
学びの継続	次のステージ・関連科目			

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本言語文化特殊研究Ⅱ	通年	火 4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	村上 陽子	2 年	y.murakami@okiu.ac.jp 5-404研究室	

学びの準備	ねらい 先行研究や関連文献を踏まえ、修士論文を完成させる。	メッセージ 本講義では、受講生の自主的なテーマ設定や修士論文執筆過程で出てきた疑問の提示などを歓迎します。
	到達目標 自身の目標・テーマに応じた修士論文を完成させること。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを読んでくること
	2	研究計画の発表	研究計画作成
	3	研究計画の修正および文献リストの提示	文献リスト作成
	4	発表①	発表準備
	5	添削指導①	指摘を受けた箇所の修正
	6	発表②	発表準備
	7	添削指導②	指摘を受けた箇所の修正
	8	発表③	発表準備
	9	添削指導③	指摘を受けた箇所の修正
	10	プレゼンテーション指導	資料作成
	11	模擬プレゼンテーション及び質疑応答	予想される質問を考える
	12	論文の問題点の抽出	論文全体の問題点を考える
	13	矛盾・論理破綻の解消	指摘を受けた箇所の修正
	14	発表④	発表準備
	15	添削指導④	指摘を受けた箇所の修正
	16	修士論文中間提出	中間提出の準備
	17	文献リストの提示	文献リスト作成
	18	関連文献講読①	参照する文献の選定
	19	関連文献講読②	参照する文献の選定
	20	発表⑤	発表準備
	21	添削指導⑤	指摘を受けた箇所の修正
	22	章立ての確認および修正	章立てを確認する
	23	各章の論旨の確認	各章の論旨を確認する
	24	必要に応じて論を補強・修正する	指摘を受けた箇所の修正
	25	引用・参考文献の確認・修正①	引用箇所を確認する
	26	引用・参考文献の確認・修正②	引用箇所を確認する
	27	序論の執筆	序論を執筆する
	28	結論の執筆	序論を執筆する
	29	序論・結論添削指導	指摘を受けた箇所の修正
	30	誤字脱字の確認および修正	誤字脱字の確認
	31	修士論文提出	提出準備

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて指示する。
	学びの手立て 関連文献の読み込みを随時行うこと。
	評価 講義内での発言・発表・レジュメの内容を総合して評価する。
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 紀要・学会誌への論文投稿。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本言語文化特殊研究Ⅱ	通年	月 6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	2 年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 修士論文の作成のために、毎時間課題レポートを課し、具体的な論文作成指導を行う。日本の言語文化と教育について、文献調査、実地調査等を通して明らかにしていく。特に古典文学と日本の言語文化が教育にどのような影響を与えてきたのかについて、古典テキストの読解、分析を通して検討していく。	メッセージ インプットとアウトプットを意識して課題に取り組もう。データの収集と考察はセットである。狭く入って広く出る。課題は砕き、具体的、実践的な検証を心がけよう。悠々として急げ。
	到達目標 修理論文作成を目指して、関係資料の分析、先行研究を踏まえた論述の方法、説得力のある論の展開等を学び、実践できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	2	修士論文の構成（問題の所在、章立て）①	章立てについて整理する。
	3	修士論文の構成（問題の所在、章立て）②	章立てについて整理する。
	4	序論及び先行研究①	レジュメの作成・準備。
	5	序論及び先行研究②	レジュメの作成・準備。
	6	序論及び先行研究③	レジュメの作成・準備。
	7	先行研究の整理①	レジュメの作成・準備。
	8	先行研究の整理②	レジュメの作成・準備。
	9	先行研究の整理③	レジュメの作成・準備。
	10	実地調査の整理①	レジュメの作成・準備。
	11	実地調査の整理②	レジュメの作成・準備。
	12	実地調査の整理③	レジュメの作成・準備。
	13	中間発表会に向けた発表資料作成①	レジュメの作成・準備。
	14	中間発表会に向けた発表資料作成②	レジュメの作成・準備。
	15	中間発表会に向けた発表資料作成③	レジュメの作成・準備。
	16	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	17	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	18	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	19	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	20	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	21	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	22	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	23	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	24	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	25	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	26	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	27	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	28	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	29	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	30	修士論文についての発表、検討	レジュメの作成・準備。
	31	修士論文のまとめ、製本、提出	修士論文を提出する。

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 講義中に適宜紹介する。
	学びの手立て ほぼ毎回、レジュメ作成を課すが、課題意識に基づいて進めていく。文献調査だけに限らず、広い意味でフィールドワークをとらえ、学校教育の現場や資料館、博物館、劇場などの様々な資料調査を行うことを心掛けてほしい。また、感染予防対策等に配慮して、修士論文作成に関わる研究旅行も計画する予定である。その都度、考えたこと、感じたこと、導き出したことを言語化して残すことを心がけよう。
	評価 作成したレジュメ等レポート課題（20%）、修士論文（80%）
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 日本古典文学特論ⅠA・ⅠB、国語科教育学特論Ⅰ・Ⅱ、南島芸能特論Ⅰ・Ⅱ。中間発表以外に、各種紀要等への投稿も目指したい。また、関係学会、研究会等への参加によって研究の視野を広げたい。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本古典文学特論ⅠA	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1 年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、万葉集歌を扱う。今から1300年ほど前を生きた万葉びとが詠んだ歌を、時代背景・作歌状況・作者の個性・習俗・ことば等々を踏まえながら、一首一首深く読み解く。	メッセージ 辞典類（「類聚名義抄」「時代別国語大辞典」等）を使って、事前に古語を調べてきてください。 【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。
	到達目標 1 主な万葉歌（第1期～4期）の作歌事情、歴史的な背景を理解すること。 2 万葉仮名（文字）の訓法を理解すること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスを確認する
	2	大王の呼びかけ―雄略天皇の歌	資料の精読・分析・考察
	3	近江朝の花―額田王の歌	資料の精読・分析・考察
	4	19歳の死―有間皇子の歌	資料の精読・分析・考察
	5	二上山哀傷―大津皇子・大伯皇女の歌	資料の精読・分析・考察
	6	宮廷歌人の出現―柿本人麻呂（行幸歌・皇族挽歌・近江荒都歌）	資料の精読・分析・考察
	7	愛の讃歌―柿本人麻呂	資料の精読・分析・考察
	8	風景を詠む―山部赤人	資料の精読・分析・考察
	9	伝説を詠う―高橋虫麻呂	資料の精読・分析・考察
	10	知識人の憂愁―大伴旅人	資料の精読・分析・考察
	11	貧困、老い、病、死、子ども―山上憶良	資料の精読・分析・考察
	12	大伴家持―青春時代、越中時代	資料の精読・分析・考察
	13	春愁三首―大伴家持の心	資料の精読・分析・考察
	14	東国の歌声―東歌、防人歌	資料の精読・分析・考察
	15	萬葉の終焉―いや重け吉事	授業の振り返り
	16	期末考査	テストの振り返り
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『万葉集必携』稲岡耕二編、學燈社。 『万葉集必携Ⅱ』稲岡耕二編、學燈社。 適宜指示する。		
	学びの手立て 辞典類を多く引きます。古語辞典だけではなく、日本史辞典や国語便覧、有職故実なども良く調べてから授業に参加してください。自明のことを自明とせず、しっかりと原点にあたるようにしてください。		
	評価 授業参加状況 2 0 %、レジュメ 8 0 %		

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本古典文学特論ⅠB
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	日本古典文学特論ⅠB	後期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	田場 裕規	1 年	ytaba@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、万葉集歌を扱う。今から1300年ほど前を生きた万葉びとが詠んだ歌を、時代背景・作歌状況・作者の個性・習俗・ことば等々を踏まえながら、一首一首深く読み解く読解トレーニングを行う。特に柿本人麻呂の歌を扱う。	メッセージ 『類聚名義抄』などの古辞書の引き方を覚えてください。 【実務経験】高等学校教諭だった現場経験を生かして、授業実践に関する視点を意識した指導を行います。
	到達目標 1 柿本人麻呂の文字遣いについて、漢字資料の分析・検討をとおして、万葉仮名（文字）の訓法を習得する。 2 柿本人麻呂歌集歌における、漢字用例を分析し、万葉仮名（文字）における標示性と表現性を考察する力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	万葉集と柿本人麻呂	シラバスの確認
	2	万葉仮名（文字）と訓法について	資料の精読・調査・分析
	3	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	4	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	5	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	6	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	7	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	8	人麻呂作歌の検討	資料の精読・調査・分析
	9	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
	10	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
	11	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
	12	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
	13	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
	14	人麻呂歌集歌の検討	資料の精読・調査・分析
	15	人麻呂歌集歌の検討	授業の振り返り
	16	期末考査	授業のまとめ・省察
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 『萬葉集』本文篇（塙書房） 伊藤博『萬葉集釋注』（集英社）、澤瀉久孝『萬葉集注釋』（中央公論社）		
	学びの手立て 正宗敦夫『萬葉集總索引』などを活用して、用例を検討すること。解釈と表現、文字の連関と共起などの視点によって分析検討すること。		
	評価 授業参加状況 2 0 %、レジュメ 8 0 %		

学びの継続	次のステージ・関連科目 仮名文字が出現する以前に使用されていた、万葉仮名（文字）は様々な分析検討が行われている。上代の文字に関する論文を読み、日本語（和語）と中国語（漢語）との関係について、考察する視点を見出してください。
-------	--

科目基本情報	科目名 日本古典文学特論ⅡA	期 別 前期	曜日・時限 土 3	単 位 2	
	担当者 葛綿 正一	対象年次	授業に関する問い合わせ		
		1 年	kuzuwata@oku.ac.jp		
	学びの準備	ねらい 中世・近世の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の中世・近世文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。	メッセージ テキスト注釈の楽しみを知ってほしい。		
到達目標 先行研究を踏まえ、緻密なレポートを作成する。					
学びの実践	学びのヒント 授業計画				
	回	テーマ	時間外学習の内容		
	1	日本文学における中世と近世	プリントによる学習		
	2	『日本霊異記』上巻・注釈	プリントによる学習		
	3	『日本霊異記』中巻・注釈	プリントによる学習		
	4	『日本霊異記』下巻・注釈	プリントによる学習		
	5	『今昔物語集』天竺部・注釈	プリントによる学習		
	6	『今昔物語集』震旦部・注釈	プリントによる学習		
	7	『今昔物語集』本朝部・注釈	プリントによる学習		
	8	『古事談』注釈	プリントによる学習		
	9	『宇治拾遺物語』注釈	プリントによる学習		
	10	『古今著聞集』注釈	プリントによる学習		
	11	『沙石集』注釈	プリントによる学習		
	12	『発心集』注釈	プリントによる学習		
	13	『十訓抄』注釈	プリントによる学習		
	14	南島文学との比較・遺老説伝を読む	プリントによる学習		
	15	まとめ	レポート作成		
	16	レポートの書き方	レポート作成		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。				
	学びの手立て 日本国語大辞典、沖縄古語大辞典など大きな事典類を引くこと。				
	評価 レポートによって成績を評価する。100%				
学びの継続	次のステージ・関連科目 「日本古典文学特論ⅡB」でも先行研究を踏まえた緻密なレポート作成を学ぶ。				

科目基本情報	科目名 日本古典文学特論ⅡB	期 別 後期	曜日・時限 土 3	単 位 2	
	担当者 葛綿 正一	対象年次	授業に関する問い合わせ		
		1 年	kuzuwata@oku.ac.jp		
	学びの準備	ねらい 中世・近世の説話や歌謡を取り上げ、注釈をつけながら、日本の中世・近世文学の特質について考える。また、南島の説話や歌謡との比較も試みたい。	メッセージ テキスト注釈の楽しみを知ってほしい。		
到達目標 先行研究を踏まえ、緻密なレポートを作成する。					
学びの実践	学びのヒント 授業計画				
	回	テーマ	時間外学習の内容		
	1	日本文学における中世と近世	プリントによる学習		
	2	『日本霊異記』上巻・注釈	プリントによる学習		
	3	『日本霊異記』中巻・注釈	プリントによる学習		
	4	『日本霊異記』下巻・注釈	プリントによる学習		
	5	『今昔物語集』天竺部・注釈	プリントによる学習		
	6	『今昔物語集』震旦部・注釈	プリントによる学習		
	7	『今昔物語集』本朝部・注釈	プリントによる学習		
	8	『古事談』注釈	プリントによる学習		
	9	『宇治拾遺物語』注釈	プリントによる学習		
	10	『古今著聞集』注釈	プリントによる学習		
	11	『沙石集』注釈	プリントによる学習		
	12	『発心集』注釈	プリントによる学習		
	13	『十訓抄』注釈	プリントによる学習		
	14	南島文学との比較・遺老説伝を読む	プリントによる学習		
	15	まとめ	レポートの作成		
	16	レポートの書き方	レポートの作成		
	テキスト・参考文献・資料など 適宜、指示する。				
	学びの手立て 日本国語大辞典、沖縄古語大辞典など大きな事典類を引くこと。				
	評価 レポートによって成績を評価する。100%				
学びの継続	次のステージ・関連科目 先行研究を踏まえた緻密なレポート作成の能力は修士論文作成に役立つはずである。				

科目基本情報	科目名 比較社会文化特論Ⅰ	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	木 6	2
	担当者 桃原 一彦	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	講義終了後あるいはメール等でも受け付けます。	
学びの準備	ねらい 沖縄社会のみならず、アジアおよび太平洋諸地域の社会構造や文化事象との比較の中で、大学院生各自の研究テーマに関連した社会的な視点を習得すること。	メッセージ アジアおよび太平洋諸地域の社会構造や文化事象との比較を通して、沖縄社会の構造と変動について学んでいきましょう。		
	到達目標 社会構造とその変動および文化事象に関する文献精読とその理解、大学院生各自の研究テーマに関する発見力、応用力			
学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 大学院生各自の研究テーマに即して、沖縄社会の構造と変動および文化事象に関する文献を選書し精読する。また、沖縄社会のみならずアジア、太平洋諸地域との比較検討が可能となるような文献等も精読する。これらの文献に関するレジュメを大学院生各自が作成し、発表してもらう。発表後に講義担当教員とディスカッションを行い、各自の研究テーマとどのように関連するのか、どのような発見があるのかについて相互に理解を深める。			
	テキスト・参考文献・資料など テキストの指定はないが、授業計画に記した内容に関する文献・資料などを適宜紹介し、発表課題としてする。			
	学びの手立て 大学院における少人数制の講義であるため、課題への取り組みが重要なポイントとなる。ただし、ただ単に文献を読みレジュメを作成し発表するだけではなく、文献の理解度、ポイントの整理力、自身の研究テーマに関連した発見や応用力がより重要となる。			
	評価 課題への取り組み（文献精読とその理解度、レジュメ作成の要領、口頭発表など）50点、自身の研究テーマに関連した発見や応用力等を50点として総合的に評価する。			
学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：比較社会文化特論Ⅱ			

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	比較社会文化特論Ⅱ	後期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	桃原 一彦	1 年	講義終了後またはメール等で問い合わせください。	
学びの準備	ねらい 本科目は、ドキュメント分析、会話分析、聞き取り調査、参与観察など質的調査の方法に依拠したフィールドワークを行うためのトレーニングを目的とする。とくに、新聞・雑誌記事、資料文書などのデータの分析法（内容分析等）を習得するとともに、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、ライフヒストリー分析などに関する基本的理解を踏まえながら、実践的な学習を行う。	メッセージ 学部で学んだ質的社会調査の方法を修士論文レベルで考え、使用し、マスターするための科目です。本科目は専門社会調査士資格の認定科目です。資格取得を目指す大学院生は、必ず履修してください。		
	到達目標 社会調査における質的方法の知識と技能をマスターし、修士論文の研究方法に使用できるようにする。			
学びの実践	学びのヒント 授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス：参考資料等の配布	質的調査の種類を調べる	
	2	問題発見と問題構成（質的調査とその分析の意義・目的－仮説検証と仮説発見・構成の相違）	質的調査の事例を集める	
	3	質的データ分析の一般理論的基礎①：ミルズ「類型的語彙」論	発話行為の社会学的意味を考察する	
	4	質的データ分析の一般理論的基礎②：ガーフィンケル「エスノメソドロジー」	発話行為の社会学的意味を考察する	
	5	質的データ分析の一般理論的基礎③：ゴフマン「行為の演技論」	身振りの社会性を考察する	
	6	質的データ分析の一般理論的基礎④：現象学的社会学における「間－主観性」と調査の主・客問題	主観と間-主観の違いを調べる	
	7	質的データ分析の実践①：内容分析（新聞・雑誌記事、資料文書等）	ドキュメント分析資料の収集	
	8	質的データ分析の実践②：ドキュメント分析（記録日誌、日記、手紙等の分析）	ドキュメント分析の実践	
	9	質的データ分析の実践③：聞き取り調査によるデータ収集の問題（インタビュー空間の設定と臨床性）	聞き取り調査の実践	
	10	質的データ分析の実践④：ライフヒストリー分析（日常的経験世界と「語られる」経験世界の境界）	生活史法の事例を集める	
	11	質的データ分析の実践⑤：様々な観察法Ⅰ（参与観察と非参与観察の境界）	参与観察法の事例を集める	
	12	質的データ分析の実践⑥：様々な観察法Ⅱ（組織的観察法と非組織的観察法など）	観察方法の要点をまとめる	
	13	学生の個別テーマに則した質的調査法と分析法の討議①	研究論文での質的調査の応用	
	14	学生の個別テーマに則した質的調査法と分析法の討議②	研究論文での質的調査の応用	
	15	まとめとふりかえり	研究論文での質的調査の応用	
16	補習	ふりかえりと修士論文指導		
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など 佐藤郁哉『質的データ分析法－原理・方法・実践』、新曜社、2008年。谷富夫編『ライフヒストリーを学ぶ人のために』、世界思想社、1996年。 適宜紹介する。			
	学びの手立て 大学院教育の目標である修士論文の調査研究を前提とした講義になる。研究テーマの具体的な論理展開の参考に するように心がけてください。			
	評価 提出物(論文・レポートなど)50点、平常点（出席回数、発表やディスカッションへの取り組み姿勢）50点			
学びの継続	次のステージ・関連科目 南島社会文化特殊研究Ⅰ・Ⅱ			

※ポリシーとの関連性

沖縄の「民俗文化」をより深く理解するためには、周辺地域との比較もまた重要である。本科目の存在意義はそこにある。

[

／一般講義]

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	東アジア文化人類学特論ⅠA	前期	火 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	石垣 直	1 年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業の主眼は、東アジア的な視座から沖縄の社会・文化を理解することにある。この目標を達成するため、前期は主として親族・社会組織の概要を講義するとともに、重要文献を複数取り上げて輪読する。	メッセージ 文化人類学、とくに東アジア的な視座から沖縄の社会・文化を学ぶことの重要性を理解してほしい。
	到達目標 文化人類学の視座から、東アジア諸地域との比較を基に沖縄の親族・社会組織を理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業の概要・目標を理解する
	2	文化人類学概論（1）	文化人類学の基礎を復習する
	3	文化人類学概論（2）：親族研究の歴史	文化人類学の基礎を復習する
	4	文化人類学概論（3）：親族研究の現在	文化人類学の基礎を復習する
	5	文化人類学と東アジア／沖縄研究（1）	東アジア／沖縄研究を調べる
	6	文化人類学と東アジア／沖縄研究（2）	東アジアの親族制度を調べる
	7	文化人類学と東アジア／沖縄研究（3）	東アジアの親族制度を調べる
学びの実践	8	文献資料読解（1）	文献を読み込み要約する
	9	文献資料読解（2）	文献を読み込み要約する
	10	沖縄の親族・門中制度とその歴史的展開	沖縄の親族研究の歴史を理解する
	11	東アジアの中の沖縄の親族・門中制度	東アジアの中の沖縄の親族を考える
	12	沖縄親族研究の最前線	沖縄の親族研究の現状を理解する
	13	文献読解（3）	文献を読み込み要約する
	14	文献読解（4）	文献を読み込み要約する
	15	まとめ	前期の内容を振り返る
	16	（予備日）	
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは特になし。 ・参考文献については授業の際に随時紹介する。		
学びの実践	学びの手立て 授業では、文化人類学、とくに沖縄と関わる東アジア研究を扱うが、それらの視座・分析手法・論理構成を各自の修士論文にどのように活用できるかを常に意識しながら授業に臨んでほしい。		
	評価 積極的な授業参加を重視する。その上で、学期末に提出してもらうレポート（本講義&修論と関連付けたテーマ設定）の内容を踏まえ、総合的に評価する。（平常点：50%、期末課題：50%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 沖縄の社会・文化はもちろんのこと、東アジア地域に関する他領域の科目（基礎知識が乏しい場合は学部の授業も含む）なども積極的に履修してほしい。
-------	--

沖縄の「民俗文化」をより深く理解するためには、周辺地域との比較という視点もまた重要である。本科目の存在意義はそこにある。

[一般講義]

科目基本情報	科目名 東アジア文化人類学特論ⅠB	期 別	曜日・時限	単 位
		後期	火 6	2
	担当者 石垣 直	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年	nishigaki@okiu.ac.jp	

学 び の 準 備	ねらい この授業の主眼は、東アジア的な視座から沖縄の社会・文化を理解することにある。この目標を達成するため、後期は主として信仰・宗教の概要を講義するとともに、重要文献を複数取り上げて輪読する。	メッセージ 文化人類学、とくに東アジア的な視座から沖縄の社会・文化を学ぶことの重要性を理解してほしい。
	到達目標 文化人類学の視座から、東アジア諸地域との比較を基に沖縄の信仰・宗教を理解することができる。	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	講義の概要・目標を理解する
	2	東アジアの中の沖縄の暦・年中行事	沖縄の暦・年中行事を調べる
	3	東アジアの中の沖縄の葬墓制	沖縄の葬墓制を調べる
	4	東アジアの中の沖縄の祖先祭祀	沖縄の祖先祭祀を調べる
	5	東アジアの中の「家礼」文化と琉球・沖縄	沖縄の家礼を調べる
	6	文献読解（１）	文献を読み込み要約する
	7	文献読解（２）	文献を読み込み要約する
	8	東アジアの孔子廟・積奠と琉球・沖縄（１）	沖縄の儒教を調べる
	9	東アジアの孔子廟・積奠と琉球・沖縄（２）	沖縄の儒教を調べる
	10	東アジアの中の沖縄の人生儀礼	沖縄の人生儀礼を調べる
	11	東アジアの中の沖縄の「オナリ神」信仰	沖縄の「オナリ神」信仰を調べる
	12	東アジアの中の沖縄の外来宗教	沖縄の外来宗教を調べる
	13	文献読解（３）	文献を読み込み要約する
	14	文献読解（４）	文献を読み込み要約する
	15	まとめ	後期の内容を振り返る
	16	（予備日）	
	テキスト・参考文献・資料など ・テキストは特にない。 ・参考文献については、授業の際に随時紹介する。		
学びの手立て 授業では、文化人類学、とくに沖縄と関わる東アジア研究を扱うが、それらの視座・分析手法・論理構成を各自の修士論文にどのように活用できるかを常に意識しながら、授業に臨んでほしい。			
評価 積極的な授業参加を重視する。その上で、学期末に提出してもらうレポート（本講義&修論と関連付けたテーマ設定）の内容を踏まえ、総合的に評価する。（平常点：50%、期末課題：50%）			

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
	沖縄の社会・文化はもちろんのこと、東アジア地域に関する他領域の科目（基礎知識が乏しい場合は学部の授業も含む）なども積極的に履修してほしい。

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	東アジア文化人類学特論Ⅱ	前期	木 6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-呉屋 淳子	1 年	goyaj@okigei.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義は、奄美・八重山諸島等を含む琉球弧における琉球・沖縄文化について文化人類学的視点から学びます。特に、戦後以降、琉球・沖縄文化の創造について人々の生活とどのように関わり、また文化行政や教育制度とどのように関わりながら展開してきたかについて検討します。これらを踏まえて、現代社会における琉球・沖縄文化の展開とその課題について考えます。	メッセージ 文化人類学は、「当たり前」を問い直す学問です。「伝統的なもの」「民俗的なもの」について考える時も、その「当たり前」を問い直すことで未来への手がかりが見えてくるかもしれません。本講義では、私たちを縛る「当たり前」が、実は歴史的・文化的に構築されたものであるという前提に立って、琉球・沖縄文化について理解していくことが大切です。
	到達目標 ①多様な沖縄文化の事例から、文化人類学の概念を理解することができる。 ②比較文化学的な視点から、琉球・沖縄の特徴と多様さを理解することができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	講義の概要を理解する。
	2	琉球弧のなかの多様な文化①	配布資料を精読すること
	3	琉球弧のなかの多様な文化②	配布資料を精読すること
	4	琉球弧のなかの多様な文化③	配布資料を精読すること
	5	戦後の復興と「沖縄文化」①	配布資料を精読すること
	6	戦後の復興と「沖縄文化」②	配布資料を精読すること
	7	フィルム・セッションa	配布資料を精読すること
学びの実践	8	復帰と「沖縄文化」①	配布資料を精読すること
	9	復帰と「沖縄文化」②	配布資料を精読すること
	10	フィルム・セッションb	配布資料を精読すること
	11	現代沖縄における文化遺産の保存と継承①	配布資料を精読すること
	12	現代沖縄における文化遺産の保存と継承②	配布資料を精読すること
	13	現代沖縄における文化遺産の保存と継承③	配布資料を精読すること
	14	フィルム・セッションc	配布資料を精読すること
	15	沖縄文化の保存・継承をめぐる現代的課題	配布資料を精読すること
	16	レポート提出	
	テキスト・参考文献・資料など 渡邊欣雄2002『沖縄文化の拡がりと変貌』（榕樹林） 呉屋淳子2017『「学校芸能」の民族誌—創造される八重山芸能』（森話社） 呉屋淳子2020「伝統芸能の〈担い手〉とは誰か—現代から問い直す組踊の継承」久万田晋・三島わかな編『沖縄芸能のダイナミズム』（七月社）		
学びの実践	学びの手立て ①琉球・沖縄の歴史・文化関連の文献や資料を積極的に読んでください。 ②可能な限り、インターネットで公開されているデジタルアーカイブを活用して、学習を行ってください。 なお、状況に応じてシラバスの内容を一部変更をする場合があります。		
	評価 レポート50%、平常点（出席）50%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 東アジア文化人類学特論ⅠA・ⅠB、東アジア文化人類学特論Ⅲ、南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ、南島民俗宗教特論Ⅰ・Ⅱ
-------	--

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	東アジア文化人類学特論Ⅲ	後期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	比嘉 理麻	1 年	r.higa@oku.ac.jp	

学びの準備	ねらい 本講義では、人間と社会、政治と自然を主題とする文化人類学の専門知識と最新の研究動向を深く理解したうえで、その理論枠組みを用いて、東アジア地域の諸文化を考察することを目的とする。それによって、個別文化を緻密に分析する洞察力と、人類学的な比較文化の方法論を習得することを目指す。	メッセージ 文化人類学の基礎知識を獲得済みであること、その上で、講義への積極的な参加、能動性・主体性を求めます。
	到達目標 1) 文化人類学の専門知識と最新の研究動向を理解できるようになる。 2) 東アジア地域の諸文化を分析する洞察力が体得できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	テキストの講読による予習
	2	アナキズムの人類学序説	テキストの講読による予習
	3	国家に抗する社会	テキストの講読による予習
	4	東アジアの抵抗の文化	テキストの講読による予習
	5	稲作と収奪	テキストの講読による予習
	6	脱国家のアジア史	テキストの講読による予習
	7	民主主義の非西洋的起源とは	テキストの講読による予習
	8	私たちの中にあるコミュニズム	テキストの講読による予習
学びの実践	9	災害ユートピア	テキストの講読による予習
	10	アセンブリの文化：香港と沖縄の事例から	テキストの講読による予習
	11	住まうことの人類学	テキストの講読による予習
	12	蜘蛛と蟻の視点から	テキストの講読による予習
	13	人間あらざるものたちとの連帯	テキストの講読による予習
	14	ポストヒューマンの東アジア人類学に向けて	テキストの講読による予習
	15	総括	総合的な復習
	16	期末課題	期末課題のおさらい
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：Ingold, Tim 2000 The Perception of the Environment: Essays in livelihood, dwelling and skill, Routledge. Graeber David 2009 Direct Action: An Ethnography, AK Press. その他の参考文献や資料は講義時に随時紹介する。		
	学びの手立て 文化人類学の文献を積極的に読むこと。		
	評価 原則として、講義の参加度（30％）、小課題（30％）、期末課題（40％）によって総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 東アジア文化人類学特論Ⅱ、東アジア文化人類学特論ⅠB
-------	---

科目基本情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	文化財保存特論	前期	土 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮城 弘樹	1 年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 文化財、歴史遺産を中心に、保護や活用の在り方について学ぶ。特に国内の文化財保護法のもと実施されている、史跡の保存修復事業や、世界遺産の保存活用の在り方について紹介する。調査研究、保存技術などの成果に学び、復元整備と環境活用の実情や課題などを具体的に紹介し考える。	メッセージ 身近な文化財について、保存するための様々な知恵と工夫と一緒に考えましょう。
	到達目標 現代社会における文化財保護の在り方、活用について理解できるようになる。文化財をつなぎストーリーを組み立てることができるようになる。文化遺産が抱える課題について解決方法を検討することができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	文化財とは何か？	シラバスを精読すること
	2	文化財保護と整備の歴史	配布資料を精読すること
	3	文化遺産に関する国際憲章	配布資料を精読すること
	4	史跡整備の事業過程	配布資料を精読すること
	5	整備の計画と基本構想	配布資料を精読すること
	6	史跡の復元と表現の方法	配布資料を精読すること
	7	石垣の修理と復旧	配布資料を精読すること
	8	史跡の解説と案内板	配布資料を精読すること
	9	史跡における体験学習	配布資料を精読すること
	10	文化財の防災	配布資料を精読すること
	11	歴史・文化遺産の整備の実例（受講生による発表）	配布資料を精読すること
	12	史跡の維持管理	配布資料を精読すること
	13	地域の歴史的魅力や特色を語るストーリー	配布資料を精読すること
	14	史跡活用の取り組み	配布資料を精読すること
	15	ボランティア、市民参加による史跡の活用	配布資料を精読すること
	16	期末レポート	提出
テキスト・参考文献・資料など テキストは用いない。毎回講義で参考資料を配布する。 参考文献『史跡整備のてびき 保存と活用のために』文化庁文化財部記念物課（監修）2005年 同成社			
学びの手立て 文化財は有形無形様々なものがある。本講義では遺跡（史跡）を中心に講義を行うが、広く様々な文化財があることを認識すること。地域にある文化財について、遺跡に限らず広く関心を持つこと。			
評価 平常点(50%)、期末レポート（50%）で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 「考古学特論Ⅰ・Ⅱ」「南島先史文化特論Ⅰ・Ⅱ」「南島史学特論Ⅰ・Ⅱ」「南島民俗特論Ⅰ・Ⅱ」「南島地理学特論Ⅰ・Ⅱ」	